

平成24年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成24年9月11日(火曜日)

議事日程第4号

平成24年9月11日(火曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副市	長	本間	政一君
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者	会計課長	結城	一也君
ガス水道局長		小林	忠君	消防	長	小林	強君
教育	長	竹田	正光君	教育次長		伊奈	晃君
教育委員会	子ども課長	吉田	一郎君	教育委員会教育総務課長兼務			
教育委員会	文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木	繁雄君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務		田原	秀夫君
+				監査委員事務局	長	横田	靖彦君

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	主任	主査	水島	誠仁君
主	査	大西	学君				

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、4番、渡辺重雄議員、18番、倉又 稔議員、2名を指名いたします。

日程第2．一般質問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き通告順に発言を許します。

田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

おはようございます。

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて、これから質問いたしますのでよろしくお願いいたします。

1、能生体育館について。

能生体育館の改築については合併時の約束事であり、新規建設ということで関係者はもとより、地域住民においても関心と期待が寄せられています。

これまで改築検討協議会、能生地域審議会で方向性が話し合われてきましたけれども、建設地や機能について寄せられている様々な意見・要望に対して、どのようにコンセンサスを得ていくか、現在の状況と今後の進め方を伺います。

2、原子力発電と再生エネルギーについて。

(1) 8月29日、県の地域防災計画見直しが行われ、原子力災害対策では、東京電力柏崎刈羽原発事故に備える範囲を全県に広げるなどの修正がされました。

一方、柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票条例の署名が6万人以上集まるなど、再稼働に関し県民全体の課題として注目されています。

来年4月に再稼働予定の柏崎刈羽原子力発電所1号機直下にある断層の検査がこれから行われるなど、現在停止中の柏崎刈羽原子力発電所と石川県の志賀原子力発電所の断層が原発の安全性に大きな影を落としています。両原発の影響を受けやすい位置にある糸魚川市として、再稼働についてどのような考えか伺います。

(2) 現在市内各地で行われている「放射性物質に汚染された汚泥処理」の説明会と今後の対応を伺います。

3、並行在来線について。

(1) 6月に新社名と路線名が決定しましたが、肝心の基本計画が見えず、市民の間では「運行の課題と方向性」についての見直しを求める動きもあります。新潟県の並行在来線会社「えちごトキめき鉄道株式会社」の運行形態・経営計画の現在の状況と今後の予定について伺い

ます。

- (2) 糸魚川駅開業100周年、大糸線全線開通55周年事業の取組状況と平成26年4月から6月に行われる新潟デスティネーションキャンペーンの取り組みについて伺います。

4、猛暑と少雨による水稲及び畑作物への影響と農業所得向上策について。

- (1) 平成22年並の猛暑と少雨により、新潟県内の水田にひび割れの被害など発生しています。市内の稲作、畑作物への影響とまたその対策について伺います。

- (2) 農業所得の向上について。

平成22年の農業所得が1農業経営体あたり全国平均で17.4%上昇し、122.3万円となり、平成15年以来7年振りに増加となりました。新潟県では32%の上昇とも聞きますが、糸魚川での農業所得状況についてはいかがでしょうか。

また、農業所得増大には販売価格の向上、販売量の増大の取り組み、具体的には販売と生産の一体化、生産物直売所、ブランド化、コスト削減などですが、状況と今後の取り組みについて伺います。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の能生体育館のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、国の政策であることから、注視してまいりたいと考えております。

2点目の上水道等から生じる汚泥処理についての住民説明会につきましては、初日の行政報告で申し上げたとおり、これまでに自治会をはじめ15カ所で説明会を実施し、延べ384人の出席をいただいております。放射能が含まれるということに対する不安の声もあることから、市といたしましては測定体制を強化するなど、市民の安全・安心を前提とし、受け入れを判断していきたいと考えております。

3番目の1点目につきましては、県及びえちごトキめき鉄道株式会社に早急に経営計画を示すように要請をいたしておりますが、検討中としていまだに示されておられません。

今後の予定につきましては、明らかな期日は示されておられません。

2点目につきましては、キハ120のラッピング車両は8月4日に出発式を行いました。撮るたびフォトコンテスト、大糸線花いっぱい事業を実施中であり、10月14日の鉄道の日記念式典と鉄道祭りを予定いたしております。

デスティネーションキャンペーンにつきましては関係機関と連携し、当市の魅力を効果的に発信するべく検討を始めております。

4番目の1点目につきましては、今のところ市内では目立った被害は発生いたしておられません。

2点目につきましては、公表された市町村別数値はありませんが、米戸別所得補償モデル事業が実施され、総額約1億8,900万円の助成がありましたので、当市においても農業所得は増加したものと考えております。

また、6次産業化や農商工連携への取り組みに対しましては、市といたしましても関係機関と連携をしながら支援してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、改築検討協議会で取りまとめをいただいた検討内容について、市議会総務文教常任委員会や能生地域審議会、懇談会等で説明し、ご意見、ご要望をいただいております。

市としましては、体育館の機能を基本としており、ご要望を取りまとめ、体育館に必要な設備や機能について検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

それでは再質問をお願いいたします。

初めに、能生体育館ですけれども、8月27日に行われました懇談会、能生体育館改築に関する懇談会、この懇談会を傍聴させてもらいましたけれども、集まっておられた方々からは、かなりいろいろな声が聞かれました。会場へ来るまで案内を、どこに、どういう範囲で出されたかわからない。あるいは、これまで検討を続けてこられた方たちと、その日に初めて参加した方などが同一テーブルで、いきなりといった感があって、戸惑いの声も聞かれました。招集し、説明する行政側と、審議委員や招集を受けた6団体の間に、懇談会に臨む温度差といいますでしょうか、いろいろありましたけれども、この進め方に、いささか不安を感じているところですが、この会は教育長の名前で招集された会ですけれども、教育長が出席されていて、どのようにこの感じを受けとめられたのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

参加された方々の中に戸惑いがあったというのは、事実だと感じております。どの範囲に出てい

るのか、案内状の中にその範囲を示せばよかったのかなということ、今、強く感じております。
以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほどの答弁では、今後まだいろいろと要望のほうも取りまとめていかれるということですが、今後このような懇談会等を予定されておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

先ほどの8月の懇談会のときに、ご意見やご要望をたくさんいただきました。こういうものが、どういう意見があるのかというのをまとめまして、次、もう1回、懇談会を開催したい予定でございますので、そこでお示しをして、市の方針も説明をさせていただくという機会を持ちたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それでは、まず建設地のことについて伺いたいと思いますけれども、今、改築検討協議会の方々から4カ所の候補地を示されておられます。この4カ所を決定する時期はいつごろ予定され、どのように絞り込みをされていかれるのか、まず、その辺からお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

建設地の決定の時期ということでございますが、当初の予定では26年度の改築ということでございますので、今年度に決定をして、実施設計を業者に委託で発注をするという予定でございました。当初、秋ごろまでということ考えておりましたが、今、能生地域のご意見、ご要望を慎重にお聞きしているという段階でございます。それがまとめ次第ということで、今ここで時期については、まだ今のところ未定ということで、意見の取りまとめを進めているというところでございます。

絞り込みにつきましても、今4カ所を挙げていただいております。地域審議会、懇談会の場でも、どこの場所がいいですというご意見をいただいておりますが、1つにまとめなければいけないの

で、全員の方が1つ、ここがいいというのではないと思っております。できるだけ皆さんのご意見の多いところを市のほうで、また判断をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

言われるとおりかと思うんですけども、いずれ絞り込んでいかれるわけですけども、市のほうとして絞り込みに当たって、この建設地の特定に重視する点というものがもしありましたら、お願いしたいと思えます。

また、いただいた資料の中には、いろいろと敷地面積、標高等ありますけれども、6月の議会において、まず駐車場のことを先に伺いますけれども、駐車場は、まず150台は確保したいというふうに答弁されておられましたけれども、面積については、駐車場150台というのは何平米ぐらいか、あわせてお願いしたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

建設場所を決めるときに重視する点でございますが、これから利用いただく方の利便性がいい場所ということを考えております。その中では、駐車場が今の場所ですと狭いということも重視する点にも入りますし、今の体育館の場所が能生地域では商店街にも近いし、中心地でもあるということで、そういうことで体育大会、あるいはイベントを行うときにも来る方の利便もいいという、そういうことを重点として考えていかなければいけないと思っております。

また、駐車場の台数150台という点につきましては、そのとき説明をさせていただきましたのは、今の体育館で大きなイベントがあるというのは、今、駅伝が春、秋ありますが、そのときには大体大勢の方が集まりますので、150台ぐらいの駐車場を周りの企業の方、店舗の方に協力をお願いをしまして貸していただく、確保させていただいている台数が150台ということで、目安としてお答えをさせていただいたところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これから新規建設に当たり候補地を選ぶのに、150台を目安にもし駐車場というものを確保するとしたら、何平米ぐらいが必要なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

駐車場の台数につきましては、これから場所を決定する、その面積に応じて考えなければいけないと思っております。今の声の中には、現在の場所がいいですねというような声もございますので、その場所ですと限られた面積となりますので、その中で駐車場を確保するという事で決めていかなければいけないと思っております。

台数と面積の関係でございますが、1台当たり標準的に23平方メートルというようなことで考えておりますので、150台としますと3,000から4,000平米ということになるかと思えます。

以上でございます。

すみません。訂正をさせていただきます。

25から30平方メートルということが、設計をするときの標準的な面積ということで訂正をさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いずれにしても建設地を決め、また実施設計のほうがある程度決まるような形になって、その上であわせて駐車場を、その中で最大限取りたいということですね。そのように、じゃあ受けとめました。

いろいろと建設地4カ所、メリット・デメリットがあるわけですが、皆さんの意見を取り入れる中で、慎重に進めていただけたらと思います。今、私のほうで、どこがいいとかという話は持ち合わせておりませんし、なかなか大変な作業かと思えます。

あわせて機能や附帯設備についても要望もたくさん寄せられておりますけれども、このことの話になりますと、例えば地域審議会でも傍聴させていただいておりますと、何度かの話し合いが、いつも振り出しに戻ったような話で、最初から進んでいないような感を受けるということをよく聞かれるんですけども、このことについてはどのように受けとめて、また、今後どのように改善されていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

地域審議会の場では、せっかく建てる体育館ですので、これから将来に向かって能生地域の方々が利用できる、人が大勢集まるという意味で総合的なもの、複合的な施設というご要望がご意見として出されております。

市といたしましては、総合計画でも新市建設計画でも決めておりますように、能生生涯学習セン

ター整備事業の中の体育館を建てるということで、現在の体育館は老朽化しておりますので改築をさせていただき、それを基本として改築の検討協議会にもお願いをいたしました。その方針に沿って進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

おっしゃっていることはわかりました。わかるんですけれども、進め方、あの会議の持ち方が、なかなかスムーズにいったいないようなところもあるんですけれども、会議録等、あるいは資料等の提示の仕方にもいろいろと話もあるようなんですが、今後、これから大事な局面に入っていくので、その辺の配慮というものをどう考えているかということをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

市の方針と、地域審議会での意見をおっしゃられる委員の方との食い違いというのがあるかと私も感じております。ただ、その部分につきましては丁寧に説明をして、市の方針をご理解いただくように努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほどの答弁の中で、いろいろと話の中では総合的、複合的な要望も寄せられている。市のほうとしてはやはりスポーツ機能、体育機能のほうを重視したことというふうに、先ほど教育長も答弁をされましたけれども、その辺の話の持っていく方がいいでしょうか、説明のほうでは工夫はどうなんでしょうか。できているのかなと、いささか傍聴して感じるんですけど、そういった点ではいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

総合的なとか、あるいは複合的なとか、どういう施設、あるいは設備をご要望いただいているか。例えば具体的にご要望いただければ、それに対応していかねばいけないと思っております。

たくさんのご要望をいただいている中で、全てをお応えできるという状況ではございませんので、

その要望の中でできるもの、また、これはできないもの、また、ほかの施設での充実にかえていくもの、そういうものをこれから整理をして、要望が出された段階で説明をさせていただくということと進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

背景には、本来、先ほど課長が言われましたように、生涯学習センター整備事業の一環ということとでスタートしてるわけですが、生涯学習センターや公民館、体育館等の整備を進めて、その改築された生涯学習センターが、期待されたほどの文化的機能を備えていないんじゃないかというような意見も聞かれるわけなんですけれども、体育館に例えば文化的機能や何かの声もあるわけなんですけれども、そういうことで、それらが設けられない場合、どこまで設けていかれるかという話し合い、それを今後どのように詰めていくのかなというのが気になるわけなんですよね。

もしも体育館のほうで、その機能がなかなかうまくいかない場合、話し合いの中で生涯学習センターや、あるいはマリナーホール等への設備のほうも非常に話がやっけていられるのかどうか、そういう話し合いの土俵が持たれるのか、そういうことに関してもこれから考えていられるのかどうか、そういうことについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

生涯学習センターの整備のときにも検討委員会や、これから利用いただく方々のご要望をお聞かせいただいた上で整備をいたしたものでございます。今使うことについて、通常の使用で支障があるということでしたら、そういうものについては要望をお聞きをして、これから改修計画をしていかなければいけないと思っております。

また、マリナーホールにつきましては所管は違いますけれども、施設が少し古くなっておりまして、同じような支障があるということであれば、また改修計画を検討しなければいけないのではないかと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いろんなこれから具体的な要望等について話し合いがされていられるわけなんですけれども、日程的には、どのように考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

懇談会を8月に開催をいたしました。2回目の開催を議会が終わった後、10月初めごろにということで、まだ日程調整してございませんが、開催を予定をして、ご案内を差し上げたいと思っております。その後、市議会の所管であります総務文教常任委員会へも状況報告、あるいは市の方針を説明をして、まとめていくということでございます。

それから先は建設地の場所の選定もありますが、その選定が決まりましたら、実施設計ということで進めてまいりたいと思っております。26年の改築ということで、目標を実施計画でも定めておりますので、それに向かって地元の方のご理解をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これから今度、私のほうにも寄せられている要望事項もあるんですけども、この体育館、健康機能等、そういったことについての設備等も寄せられているわけなんですけども、ちょっと具体的な話になって恐縮なんですけれども、そういったことに対しても、これから話が出てくれば要望として検討されていかれる余地はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

スポーツ環境を整備する中に体育施設と、また健康づくりの推進という目的もでございます。この市民の健康づくりを推進するために、どんな機械、あるいはどんな道具といたしますか、備品が必要なのか、今後、詳細に詰めてまいりたいと思っております。

体育備品につきましても改築後の利用の見込み、利用状況を把握する中で、入れるものを検討をしましてまいりたいと思っております。その作業は実施設計の際に、お願いをしたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1つ、また具体的な話で恐縮なんですけど、高齢者や障害者の方への対応については、今後どのように検討されていかれるのか。駐車場から体育館までのアプローチやバリアフリー対応とか、

雨天や降雪の対応とか、そういったようなことに関しては、いかがなんでしょうか。

このところ周りにある公共施設を見てても、かなり不備な点が多いという声が聞かれます。いろんな声があるかと思いますが、このような高齢者、障害者対応。また、できれば、今度はその方々が体育館で参加できるような施設設備についての考えというのは、あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

実施設計の際には、県のユニバーサルデザインの指針でありますとか、県のバリアフリーの基準をクリアするように考慮してまいりたいと思っております。豪雪地でございますので、そういうものの配慮もしていかなければいけません。また、そういうものが、どのような工事費、金額がかかるのか。そういうものも見きわめながら、実施設計の中に組み込んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これから高齢化社会に当たって、高齢者を対象にした健康づくり体操など盛んに行われるようになっていくんじゃないかと思えます。誰もが、いつまでもスポーツに親しめる環境づくり、そのようなものを目指していただきたいと思いますし、そのような視点も重要じゃないかと思えます。そういった点では、また、冷暖房の設備とかバリアフリー、そういったことの対応も考えていかなければならないんじゃないかと思えますが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

高齢者、障害者の配慮は当然でございますが、そのための空調設備についてでございます。今、体育館の競技場の部分というのはアリーナ部分といいますか、そういうところについては設備の工事費とか、運転時のメンテナンス、維持管理費、そういうものを考えると、設置はかなり難しいのではないかと考えております。

ただ、管理人室、ミーティングルーム、そういう小部屋も整備をいたしますので、そういうところについては空調設備を入れる予定でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

懇談会を傍聴していると、いろいろと気になるんですけども、このようなことでいろいろな配慮をされる中で、立派な体育館の建設のほうに当たっていただきたいなと思います。

明快な納得のいく市の考え、判断、そういったものを示していただいて、意見や要望をどのような形で取り入れていくか、慎重でしっかりした進め方をお願いして、次に入りたいと思います。

議長(古畑浩一君)

暫時休憩いたします。

午前10時30分 休憩

午前10時30分 開議

議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

それでは2番目の質問に入ります。

原子力発電と再生エネルギーでございますけれども、地域防災計画の見直しで、これまで柏崎刈羽原発から半径10キロに限定されていた防災エリア、県内全域に拡大されましたけれども、その背景と、糸魚川で変わることは何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長(小林 強君)

3.11の震災以来、放射能等につきまして全域に拡散をするということは、国民が身をもって感じたわけでございます。新潟県におきましても柏崎刈羽で事故がもしあった場合については、そのような考え方がもう一般的というふうになってることから、県内全域に対しても、その対応について検討が必要であるということから、このようなことになったというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

3月議会、6月議会ですと伺いましたけれども、原子力発電所の事故に関する研究会、この柏崎刈羽原発の断層に関して、研究会では何か報告がありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

県内の市町村による研究会が設けられておりまして、その中で事故が起きた場合の避難のあり方、もちろん距離の近いところから、比較的離れた市町村があるわけです。それぞれの市町村において、どのような対応が適切であるかというようなことについて、現在、研究、調査が進められているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

志賀原発についてはS - 1断層の再調査、それを地元でも今求められているところであります。また、糸魚川市は原子力発電所の事故に関する研究会では、担当する志賀原発に関して、これまでどのような研究報告、ありましたら報告をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

+ 昨年話になりますが、山口消防長当時、富山県庁とか北陸電力さんのほうに伺いまして、いろんな情報収集にも努めておりますし、また、新潟県を通じまして、志賀原発の情報収集についてお願いしたいということで調整をとってるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

原発の再稼働につきましては、ことしの夏は昨年を上回る猛暑にもかかわらず、電力の受給は迫しないで、原発に頼らなくてもいけることが証明されました。6日の古賀さん、元経済産業省大臣官房付、現大阪府市統合本部特別顧問の講演会でも、大飯原発の再稼働は必要なかったという話もされておられました。

超党派の国会議員でつくる原発ゼロの会という会がありますけれども、6日の日に原発危険度ランキング改訂版を発表されましたけれども、評価基準は原子炉、地盤、社会環境面などの3分野、9項目でされたということで、原発ゼロの会が原子力資料情報室、原子力安全・保安院などからの情報に基づいて、項目ごとのポイントをつけた危険度、総合1位が大飯原発1号機、2号機でしたけれども、同時に発表された即時廃炉指摘28基が示されましたけれども、その中には柏崎刈羽1から7号機と、志賀原発の1・2号機も含まれてございました。ブラックリストに載ったということになるわけですが、このような状況を踏まえて、糸魚川市としてはちょっと慎重な態度を持っていいんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

原子力政策につきましては、国策であるというふうに考えてるところでございます。

国が改めてつくります今度の審査委員会等におきまして、安全性等については十分審査をするように、マスコミ等の報道があるわけでございますので、その辺を私たちはやはり市民の安全・安心の確保というところに重点を置きながら、注視をしてまいりたいというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

原発以外の再生エネルギー拡大に、国民の過半数が望んでいるということが、6月以来の2030年時点の原発割合調査、0%・15%・20から25%で、0%支持が多数を占めたということが、この間発表され、結論づけられております。

市長は2030年時点での原発依存については、どのような考えをお持ちでしょうか。また、先日そんな中で行われました柏崎原発再稼働の県民投票の是非を問う署名が、短期間で6,700名集まったと報道されておりますけれども、そのことについての考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、いろんな情報があるわけございまして、我々はその辺を見ながら、また、国の国策として今進めてるわけでございますので、その辺はどうなるのか。

ただ、今原発だけの問題だけではなくてエネルギーとして、そしてまた経済として、いろんな観点から我々は考えなくてはいけないんだろうということで、今、その辺を注視させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

エネルギーの流れというのも、今、脱原発依存と同時に再生可能エネルギーに今シフトされているように思います。原発に頼らずCO₂削減できるとともに、新しい産業として、成長分野として注目されています再生可能エネルギー、このことについて伺いたいんですが、その前に、庁内の電球をLEDに交換されたんじゃないかと思っておりますけれども、その辺の効果というものが、もしわかりでしたら教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

今年度、庁内の電球をLED化いたしました。まだ取りかえてから電気料金等の請求、完全に比較できるところまでの請求をもらっておらないものですから、具体的な数字はつかんでおりませんが、日常的に電気量のメーターを見たりする中では、かなり大きく削減できたというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

電力の固定買い取り制度が始まって、県内各地でもメガソーラーの稼働やスマートグリッドの活用、研究が盛んになってまいりました。当市で、そのような動きというのはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

当市には、まだメガソーラーというような導入等はありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

また、地域によってはですけども、耕作放棄地活用対策としての太陽光発電設置の話も聞かれます。農地集約の農地法の関連も出てくるわけですけども、閣議決定で規制緩和されたという話も聞きます。もしそういう話があれば当地では可能でしょうか、どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

メガソーラーに限って言えば、非常に広大な面積が必要です。まとまった耕作放棄地で十分な経済性がある場所が確保できれば可能とは思いますが、今、市内の現状では傾斜地で、なおかつまとまって非常に管理や何かも便利だということは、なかなかないというふうに見ております。全く可能性がないわけではないですけども、非常に立地に当たっては、条件が厳しいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1点伺いますけれども、上越沖の海底油田に天然ガス、あるいは日本海のメタンハイドレードが大変注目されております。来年度の予算においても、海洋エネルギー調査に172億円という多額の数字が予定されているというふうになっておりますけれども、糸魚川市からも近い距離なんじゃないかと思うわけですが、市のかかわりというものが何かあったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

直江津沖のメタンハイドレードにつきましては、非常に私も関心を持っております。ただ、メタンハイドレードの採取につきましては、まだ実際に起こっておりません。今これから、いろいろ国等が研究、調査して、その可能性について探っていくというような方向であるというふうに思っておりますので、糸魚川市としては、そういった状況を十分注視していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

非常に大きな事業で、これから日本海側が注目されていく、その中のちょうど近接地にあるということで、いろんな面で糸魚川の存在というものが、これから出てくる可能性があるんじゃないかなど。また、何かいろいろと情報、あるいは何か活用できることがありましたら、ぜひそういう対応のほうをお願いしたいなと思います。

次の汚泥処理の話のほうをさせてもらいますけれども、まず、市のホームページで公開されています、この質疑応答について確認をさせていただきたいと思います。

その10番とってよろしいのでしょうか。50%の脱水で湿っていて、ほろで覆っているので飛散しないというところがあるんですけども、この50%の脱水とある放射性セシウム濃度の測定は、これは脱水前に行っているものか、後で行っているものか、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

脱水後でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、保管でありますけれども、きのうは原則トラックから直接投入だが、トラブルなどがあると一時保管庫に保管するという返答がございました。一時保管庫というのは専用の倉庫とあります

けれども、専用というのは放射性物質専用ということか、それとも何か別の建物なのか。また、これをごらんになったことはあるのか、その辺を伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

私ども市内の2社に実際に入って見させていただきましたが、汚泥専用の倉庫ということで、特段、放射能に向けた専用というものではありません。要は汚泥専用で、屋内の保管施設であるということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

専用ということではないということなんですけれども、容量はどのぐらい、最大量というのは、どれぐらい保管できるものなんでしょうか。これはトラブルがあった場合ということなんですけども、トラブルというのは過去に何日間か、とまったとかということはあるんでしょうか。その分、ずっとそこに保管するんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

何立方保管できるかということまでは、ちょっと数値的には確認しておりません。

それで、きのうの答弁でもいたしましたように、機械等でトラブルがあって設備をとめなきゃならないと、こういうときには設備再開まで保管をされると。それから運ばれてきたときに、非常に一度に多くの量が来たというときには、当然セメントをつくる際に、原料調整というのが必要になります。そういった場合にも一時的に入れるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今のお話でちょっと気になったのは、原料がたくさん入ってくるとか、これは計画的に何日にどれだけ入るとかという話じゃないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

1日の処理量というのは、生産量が決まっておりますから決まってきます。ただ、運搬するときの車両で、コンスタントに一定時間間隔で来ればいいんですけれども、やはり運搬する際には、ま

とまって来るときもあるわけです。そういったときには一時的に、投入のほかに保管するときもあるというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

総量規制のことがちょっと気になるんですけど、今回問題になっている汚泥には総量規制というものはないわけなんですけれども、余りにも今回は量が多いのと、これからずっと続くなということとで付近の皆さん、あるいは市民の皆さんが心配されているところなんですけれども、これは総量が多いと濃度が低い場合どうなんでしょうかね。放射性物質の量とか、そういうものの値というものは変わってこないものなのかどうか、その辺の見解というのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

確かに総量は多くなるというふうに思います。ただ、1日当たりの処理量としては、キルンを、大体3,000から4,000トンをもし製造するとした場合、持ち込みができる量というのは決まってまいります。したがって、きのうもいろいろ説明しましたように、原料に対して100分の1程度と、それから、しかもそれが今度は粉じん等が出てくる場合、電気集じん機やサイクロンで捕集していくということで、ほとんど排出が認められないし、実際に先進地でやっていると、検査しておりますけれども、そこからも検出されていないと。こういったことで安全面については、非常に高いものであるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほど自分でも現在、総量の規制というものはないというふうに言っていましたけれども、ちょっといろいろ見ていると、これは流動的といいますか、将来規制される可能性があるというふうにもあるんですけれども、後になってから、またそういうことがないように、しっかりとチェックのほうをお願いしたいなと思います。

ホームページにありますこの13番のほうなんですけれども、集じん機の能力のことですけれども、放射性セシウムの捕集を目的につくられたものでないというふうに伺っております。この能力というものは稼働時間によって、ずっと一定の能力を維持できるものなのかどうか。また、この安全性というものの証明というものは、どのようにされているのか。その辺の気がかりなところは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

セメント生産が通常、定常的に行われている場合の電気集じん機の能力というのは、ある程度、一定に能力を発揮するものというふうに思っております。

それから後段のほうの質問、ちょっとわからなかったんですけども。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前10時49分 休憩

午前10時49分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

市民部長（吉岡正史君）

先ほども説明しましたけれども、いわゆる定常的に運転する場合は非常に高い捕集率であると。そして現在、下水道汚泥については、もう既に実施されておりますが、その際、市内の2企業で煙突からの排出について検査をしておりますけれども検出されていない。それから、また関東地方において、既に浄水場汚泥を処理しておりますけれども、その際においても検査をしてるわけですが、そこにおいても一応検出されていない。そういうことで、安全性については高いものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

安全性は高いというふうに話をされました。こういったものの安全性の証明というものは、どのようにされていくのかなと。今後継続していく中で、わかるように情報公開というものをさせていただきたいと思うわけなんです、そのことについては市のほうとしては、どのようにされていくのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今後も、もしいわゆる浄水場汚泥が実施されれば、現在の法律では1カ月に1回以上、排気ガスの放射能の検査をしなきゃならないということでございますことから、検査値について市に報告をいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

16番というのは、このホームページにあります16番なんですけれども、風評被害についてなんですけれども、風評被害は汚泥の処理プロセスを住民等に詳細に説明するとともに、環境中の空間線量の測定データを公開することで防げると考えているというふうにホームページでは回答されていますね。

風評被害を受ける心配するのは、説明を受けているこの住民や地域の者であって、風評すると言ったらおかしいんですけれども、その人たちへのデータの公開、そういったことを、どのようにされていくのか。また、風評被害を防ぐのは空間線量だけじゃなくて、これらにかかわる全てのデータの正確な情報、そういったものの公開、それが必要なのではないかと。それには例えばゲルマニウムの半導体の検出器とか、聞くとかかなり高価なものらしいんですけれども、そういったものの器具とか、専門知識が必要になってくるんじゃないかというふうに思うわけなんですけれども、その辺の考えはどのようにしておられるか。

きのう鈴木さんの部長答弁で、野中教授の講演の話をされておられましたけれども、そのことを聞いて、空間線量だけでなく、土壌についても調査が必要なのことがわかったと正直な話をされましたけれども、それを聞くと、また逆に聞いている側としては、不安になってきたりする場合があったりするわけなんですけれども、やはり専門的な知識を持った人や組織というものの活用というものが必要なんじゃないかなと。住民説明においても、そういった人たちの話というものが必要なんじゃないかなと思いますが、その辺もあわせてお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長(吉岡正史君)

市として安全性確保については、できるものを全力で取り組んでいきたいし、また、いろいろの数値について市が入手したものについては、ホームページや「おしらせばん」等で公開をしていくと。

それで風評被害というのは、なかなか防ぐことは難しいと思っております。そういう中で私どもとしては、実際の事実をきちっと公表することによって、間違った情報による被害が出ないように、これに全力を挙げていきたいというふうに思っております。

それからあと専門家の意見でございますけれども、専門家の中でもおっしゃることがいろいろあります。そういった中で私どもとしては、いろいろな人の幅広く意見を取り入れていくことによって、市として判断をしていくというスタンスで臨みたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

今回の汚泥処理受け入れの問題が報告されて以来、いろいろと話があるわけなんですけど、さらに先月末、市長が定例記者会見の中で各紙が、これまでの説明会からは受け入れについてやっていくというふうに、現段階というのがあるかもしれませんけれども、市として了承することに改めて

前向きな姿勢を示したというふうに報道されております。

これを受けてツイッターや掲示板上でかなり話題になって、いろんなものが寄せられていますけども、そのことについては承知しておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ツイッター等については、私は十分承知はしていないんですけども、いろいろ説明会や、あるいはいろいろ会うたびごとに市民の方々から、いわゆる処理に前向きな人、あるいは不安に思う人、いろんな意見をお聞きいたします。

そういった中で、私ども説明する側としては安全性確保と、あるいは安心感確保という面に重点を置いて、今現在、広く意見を聞いたり、あるいは専門家の説明等の意見を聞いて、市として最善を尽くしていくと。そういった中で、いわゆる浄水場汚泥、あるいは工業用水汚泥で、非常に困っているところにも貢献していかなくちゃならない。そういった面もあわせて、今、方向としては安全性を確保して、あるいは広く意見を聞いた中で、市長として最終的な判断をしていただくというような形で、今現在進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ツイッターや掲示板上、まだごらんになってないというんで仕方ないんですけども、やはりこういったところは敏感で、かなりいろんな形で載っているように見受けました。

こういうのを見ますと、もう放射性物質の拡散を懸念する内容もかなり見受けるわけなんですけれども、ということは、もう風評被害は始まっているんじゃないかというふうにも見受けられるんですが、そういう対策、あるいは考え等については、何かありましたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

汚泥の話が出ましてから、やはり市長への手紙、あるいはいろんな情報、インターネット等を通じて、いろんな全国から意見が来ております。やはりそれらは個人の意見でありますことから、市とすれば市民の安心・安全を確認した上で、物事を進めたいということですので、それに精いっぱい努めていくというのは仕事だと思っておりますので、県外、最近のを見ますと、もう全国的にいろんなところから来ます。同じような内容の文書で、同じようなことを言うてくる方がおられますので、そういうことに1つ1つ答えるよりも、しっかり市民の安全というものを確かめながら進めるというのが、先というふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

副市長はちょうどいいでしょうか、先日の野中教授の話も、部長もそうでしたけれども、聞かれておられるわけですが、ぜひしっかりした対応のほうをお願いしたいなと思います。

その野中教授の話ですけれども、後日の新聞報道にありますように、放射性物質を含む汚泥の受け入れについては、東京電力福島第一原発事故の影響が少なかった糸魚川というところに、なぜ放射性物質を拡散させる必要があるのかと、疑問を投げかけられたというふうにおっしゃっておられました。

同じことを私の友人で、放射性物質の影響にすごく関心を持っている者がおりまして、結構詳しいんですけれども、この震災のもう何年か前から個人で放射線測定器というものをアメリカで購入しまして、能生地域で観測しております。やはり同じ意味で、震災後の観測でも奇跡的に偏西風によって、この地は放射能から守られてきたところなんで、放射性物質をわざわざ受け入れるのは、いかがかというふうに言っておるのを聞いております。そういうこともいろいろと考慮に入れて、慎重に対応していただきたいなと思います。

野中先生の話じゃないですけど、低線量であっても5年後、10年後の将来に人体に影響が出るおそれのあるものということで、警告されておられましたので、ぜひ慎重にお願いしたいと思います。

また、古賀茂明先生も先日、講演会を行われました。改革なき増税はギリシャへの道ということで、いろんな話をされた。自分の時間的感覚では、3分の1ぐらいが原子力発電と事故についてされていたように思います。やはりお二人の講演会の中で共通しているのは、日本の原発基準というものは、世界の国際的基準に比べて甘いということを指摘されておられましたし、警告をされておられましたので、ぜひ慎重な対応のほうをお願いしたいなと思います。

もし講演会等を聞かれておられて、その感想等がありましたらお願いしたいと思いますけれども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

今回いろんな方から講演会を催していただいたわけですので、やっぱりいろんな意見を聞くというのが1つだと思っております。専門的な立場で放射能に関するいろんなデータ、あるいは福島の実態等をお話をする中で糸魚川の汚泥、あるいは新潟県で今話が出てる瓦れき等の話も具体的に出たわけですので、そこら辺を参考にする中で、やはりゼロのものを今度は新たにプラスになるわけですので、慎重に対応しなきゃなんというふうに思っていますので、しっかりそこら辺は踏まえながら、取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

慎重に、重ねて言いますが、よろしくをお願いしたいなと思います。

次に、並行在来線について伺います。

経営計画が予定だと、もう本来とっくに示されるころだと思ってこれを挙げたんですけれども、まだだということであります。今、6月だったか7月に、取締役会が行われて、路線名等が決まったりしたわけですが、それから今まで何回取締役会が行われて、どんな内容を今進めておられるのか、お願いできればと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新しい会社の名前が決まりまして、本格的に基本方針、あるいは経営計画等を立てていただきたいということでの話を、これまで再三再四、会社あるいは県のほうへ話をしてきましたが、なかなか実態としては進んでないというのは現状だというふうに認識をしております。

6月30日の日に、直近では会議がありました。その中でも今後の経営計画、あるいは運行計画等の話がありましたが、なかなか具体的なものは出なかったというのが現状であります。やはりそこら辺は地域の声というものがいろいろ発信されてるわけですので、そこら辺を踏まえていただいて早く出していただかないと、やっぱり糸魚川のいろんな課題がどんどん見えなくなって、先送りされるだけだということで、厳しく会社のほうに話をしております、次回は今月の28日、9月の28日に予定をされておりますので、ぜひこの機会にも、また話をしたいと思っておりますが、県へ行ったときには必ず会社等に寄って、いろんな地域の声を話をしておりますが、経営計画全体のことについては、もう少し先というような雰囲気であるということしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

在来線の存続、地域の振興、発展を目指す地域の会連絡会という会がありまして、当糸魚川地域でも大糸線・北陸線を守る会などが所属しておりまして、今現在アンケートをやって集約中であり

ます。途中なので中間発表ということで、まだ詳しい数字等は言えないんですけれども、若干報告させていただきまして、もしも反映させていただけるのならと思いますので、よろしく願います。

まず、運賃については、アンケートでは、やはり現行のJR水準維持が圧倒的多数、また、北陸本線の車両については、これまでどおり電車で運行すべきという声が圧倒的多数でした。また、運行区間については、長野方面は長野まで、富山方面は富山までと金沢までが多いという内容が出ております。

また、在来線の特急「北越」については、たとえ減便してでもを含めて、維持をしてもらいたいという声が圧倒的に多いと。また、快速「くびき野」については、糸魚川・新潟間の便を新設してもらいたい、そのような声が聞かれております。

また、国に求めることとしましては、新幹線貸付料などを活用して国で維持してもらいたい。また、災害事故復旧、そういったことに関しては、国からの補助の充実を求めていく。また、政策の

見直してJRの運行による継続、こういったことが多く占められておりますので、ぜひ反映してもらいたいと思います。

また、JRに対してはどうかという設問に対しては、鉄道の施設、車両はJRが修理、更新し、三セク会社に譲渡すべき。また、JRから三セクに出向する人件費はJRが負担すること。また、出資を含め三セクに経営参加してもらいたい。鉄道資産はJRが三セクに無償譲渡すべしなどが、上位にありましたことを報告させていただきます。

ぜひ市民の声として、これからまた取締役会などでも言っていただけたらなと思い、受けとめていただきたいと思いますが、ざっと述べただけなんですけども、もし感想があればお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのような方向になれば、物すごくいいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1点、新駅についてですけれども、上越や妙高のほうでも最近、特に新駅について話題が出ております。関心が非常に高まってきておるわけなんですけれども、これまでの答弁の中では、一歩踏み込めない理由に、県の動きや支援がまだ見えないからということが聞かれましたけれども、この沿線市で共通の課題として取り組むことは今やっておられるかどうか、また、取り組んでいかなければならぬのじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新駅については、3市それぞれ温度差がありますし、上越市あたりを聞きますと、県が少し議会等の答弁を聞く中では、相当支援するような形で言われるときもありますし、最近、少し温度が下がって、やはり請願駅とまでは言いませんけど、それぞれ負担があるようなことも言っておられます。そういう中では、3市の中では必ずしも上越さんあたりの話を聞くと、そこはまだ今後のことで、まず経営計画、収支のほうをはっきり打ち出して方針を見た後で、その後の問題だというようなことを言われてますし、私どももどういう支援があるのかわからないうちに、はっきりしたことが申せないの、そのような情報を得次第、また次のステップに移りたいと、このように思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、新潟デスティネーションキャンペーンなんですけれども、前回は大河ドラマの「天地人」とトキめき国体が重なりました。非常に上越のほうでは効果があったと言いますが、ぜひ次回もお願いします。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、田中議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を11時20分といたします。

午前11時07分 休憩

午前11時20分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

奴奈川クラブの五十嵐健一郎でございます。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、教育・福祉等の連携と充実について。

0歳から18歳までの糸魚川市子ども一貫教育方針に基づく「ひとみかがやく日本一の子ども」の基本計画が平成22年度に策定され、その中の確かな学力の育成（ともに学ぶ）特別支援教育の改善方向では、子どもたちにかかわる関係者や関係機関が、実効性のある連携をとれる体制を構築していくことが大切であるとされている。

そんな中、この9月定例会に糸魚川市立特別支援学校設置条例の制定についてが提出され、名称を、ひすいの里総合学校となっています。家庭・園・学校・地域による連携のもと、保護者や子どもの不安、悩みに的確に対応するための支援システムの確立と、社会全体で障害を抱える子を育てる体制づくりを進めていきたいとあります。そこで、以下伺います。

- (1) 重度障がい児童生徒の各施設（医療機関、ショートステイ、デイサービス、各種リハビリ）の地元受け入れ態勢整備の充実について。
- (2) 社会的自立を目指した途切れない支援について。

- (3) 就労支援・雇用促進について。
- (4) 文化財保存活用計画の状況について。
- (5) 合宿・修学旅行の誘致とジオ学の発展的展開について。

2、救急医療・消防救急体制の充実について。

10月30日から県ドクターヘリが本格運航されます。糸魚川へは約40分であり、糸魚川総合病院も搬送を受け入れます。間もなく糸魚川総合病院救急外来棟も完成に至り、糸魚川市民も大いに期待する中、以下伺います。

- (1) 救急専門医・看護師確保の派遣要望活動等の成果と今後の取り組みについて。
- (2) 県ドクターヘリ導入の現状と今後の見通しについて。
- (3) 消防救急体制の高度化について。

3、高齢者福祉の充実については、昨年10月20日にスタートした、いわゆるサ高住、全国で制度開始半年で既に約2万戸、1,127棟が登録済みであります。さらに今年度の介護保険制度改正に伴い、老人福祉法も見直され、有料老人ホームへの規制が厳しくなり、激変必至の高齢者住宅市場になりました。

そこで平成23年12月定例会で私の質問に、市長は、「高齢者に対して何のサービスができるか、何が魅力あるか、他の地域にないものでも糸魚川の高齢者にやはり特質するものがあるんだろうと思いますので、そういったところもあわせてできないかという検討、行政間だけの連携ではなく、企業の皆様方の中で提供できるところがあるかないか、一歩前へ出て検討させていただきたいと思います。」と言われておりました。そこで、以下伺います。

- (1) サ高住（サービス付き高齢者向け住宅）・有料老人ホームなどの誘致について。
- (2) 学校の空き教室や学校跡地を利活用した福祉施設の充実について。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、利用者の特性に応じた多様なニーズに対応仕切れない現状であります。関係機関と協力をし、一人一人の状況に合った個別支援に努めていきたいと考えております。

2点目につきましては、学校卒業後、一般就労や福祉的就労に向けての訓練や、グループホームなどの生活の場の確保を行っており、今後も関係機関と連携をし、一生を通じた継続的な支援ができるよう体制づくりに努めてまいります。

3点目につきましては、就労までの相談や訓練だけでなく、働き続けられるよう助言を行うとともに、ハローワークなど関係機関と連携し、情報交換する中で、障害者の雇用促進を図ってまいります。

4点目につきましては、昨年度に引き続き策定委員会を開催し、本年度中にまとめる予定であります。

5 点目につきましては、ジオパーク認定以後、当市を訪れる学校がふえており、今後も各種の取り組みを進めたいと考えております。

2 番目の 1 点目の救急専門医につきましては、少数で確保が困難なことから救急医療にも携わる内科医などを富山大学や新潟大学に要望し、派遣をしていただいております。

また、市の医師養成資金貸付金事業につきましては、今年 4 月から糸魚川総合病院に臨床研修医 1 名、7 月からは内科医師 1 名が着任いたしております。看護師につきましても市の事業などにより、今年度は糸魚川総合病院に 8 名が就職するなど成果が出てまいっております。

今後とも関係者との連携を密にし、事業の一層の周知を図りながら、医師、看護師の確保に努めてまいります。

2 点目につきましては、10 月 30 日から新潟大学医歯学総合病院を基地病院としまして、運航が開始される予定とお聞きいたしております。

3 点目につきましては、高規格救急車を配備するとともに、救急救命士 2 名体制に向け資格者の増員を計画的に進めてまいります。

また、年内に糸魚川総合病院に新設される救急外来棟内に救急ワークステーションを設け、救急医療体制の連携及び隊員の育成強化に努めてまいります。

3 番目につきましては、いろいろ検討をさせていただいてるわけではありますが、その中で 1 点目につきましては入居費用が高額なことや、高齢者の持ち家率が高いことから、現状におきましては需要が見込めないため、誘致については難しいと考えております。

2 点目につきましては、学校の管理上の問題や降雪、交通の便などの隣地条件等があり、福祉施設としての利活用は難しいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17 番（五十嵐健一郎君）

先ほどおっしゃいました、9 月定例会に市立の特別支援学校の制定の条例もありましたし、市長には決断していただきましてありがとうございました。また、県立の高等部も白嶺の横で開始が 25 年の 9 月というのもありますし、この特別支援教育には、いろいろな皆さん方の 40 年来の思いもございますので、ぜひその辺も進めていただきたい。

それで今の高等部までの人数の推移ですね、その辺、データをちょっと大枠でいいんで教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

高田特別支援学校ひすいの里分校の在籍者数でございますが、過去3年分となります。

平成22年度、小学部は12名でありましたし、中学部は9名、高等部は8名、合計29名でございます。平成23年度は小学部16名、中学部8名、高等部14名、合計38名でございます。平成24年度は小学部13名、中学部10名、高等部22名、合計45名となっております。年々増加の傾向にあるということでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

もう1点、ひすいの里分校だけでなく、それぞれの各学校、小中までは特別支援学級があると思うんですが、その全体の人数、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

通常学校の特別支援学級に在籍している子どもたちでございますが、平成20年度、障害種別ではなく、また学年、小中合わせまして合計49名でございます。平成21年度は63名、平成22年度は67名、平成23年度は78名、平成24年度は80名となっております。こちらのほうも、年々増加しておるとい傾向がございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ひすいの里だけがふえてるんでなく、子ども全体が少子化の状況の中でふえていると。発達障害も含めて、ちょうど健常児と瀬戸際の方々も、いろいろな形で増加しているということが顕著にあらわれている。

この中で今回取り上げたのが重度の方々、重複学級の方々なんですが、ここにもありますように医療機関、富山大学へ行ったり長岡療育園へ行ったり、ショートステイも長岡療育園、デイサービスも今やっと青海デイサービスセンターが受け入れ体制ができて、エスポワールはやかわも一時受けとったんですが、この8月に職員が大分やめられて、受け入れ体制ができないということで、大変保護者の方は困っておられると。各種リハビリも長岡まで、療育園、月1回とか週には1回行く方もやっぱりおられる。障害者が地元でも受け入れが可能な糸病とか、ショートステイもいろいろあるわけなんで、障害者が受け入れできるのに、なぜ障害児が受け入れできない。やっぱりこれ不

思議なんですよね。

子どもたち、いろいろな重複障害もお持ちでしょうけど、やっぱり子ども一貫教育になって、0歳から18歳までやるって方針を出した、それをぜひ連携。先ほど市長からお答えをいただいたんですが、個別計画を立てて、それぞれ「できない」を「できる」に変えていただきたい。新潟まで、それぞれ月何回も保護者が送り迎えしながらやっていかんらん状態を打破していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

医療系のリハビリにつきましては、重度のお子さまに関しましては長岡療育園が主力となっております。また、長岡療育園の先生のほうにもお聞きいたしました。重度の障害児の方のリハビリにつきましては、なかなか医療系のリハビリでやるというものも大変だというようなお話もお聞きしております。今後につきましては、地元の病院のほうでリハビリができないかどうかというところも検討したいとは考えております。

また、こちらのほうのデイサービスの利用でございますが、8月に受け入れができないということで、私たちも施設のほうにお伺いして、事情をお聞きしてまいりました。その後、夏休みについては、ちょっとお子さんの安全を確保する意味から、受け入れはできないということでしたが、施設側でも冬休みに向けまして職員体制を強化したいということで、取り組んでいただいているというふうにお聞きしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございます。

本当にエスポワールはやかわも、やっぱり身体障害者の施設、受け入れ体制も整っておりますし、職員がやめられれば、それは受け入れできませんよね。ぜひその辺を目指して、夏休みはだめだったんですけど、デイができないと長岡まで行ってショートとか、リハビリせんならんとかなれば困りますので、ぜひお願いしたいと思います。

今、介護予防通所リハビリステーション、デイケアですかね、これが市内に2事業所あって、医療機関と、先ほども言いました「なでしこ」と「よしだ」さんがありますし、リハビリもやっぱりもうちょっと専門的な方々というか、身体障害者の方は受け入れできるんですから、ちょっと本当の体験学習じゃないですけど、体験をして応じたようなことをやれば、やっぱりプロなんで、作業療法士を含めてできると思うんですよね。その辺のリハビリもやっぱり長岡までとか、新潟病院とか、上越へ通わんでもできるような体制を、ぜひその辺お願いしたいと思うんですが、ショートステイもいろんな形で、今それも療養介護も含めて2事業所やってるんですよね、ショートステイ、

それも含めてできんでしょうか。その辺、強く要望したいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

介護保険制度におけるデイケアの事業につきましては、指定を受けてやっていただいております。障害者の事業所として行うには、また指定が必要になってきますので、そのあたりのことをまた県のほうにも確認させていただきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

指定とかいろいろな、やっぱり県とも、ここに振興局があるのでタイアップしながら、ぜひ進めていただきたい。強力に、やっぱり子どもたちだけでなく保護者、勤めておれば、じいちゃん、ばあちゃんが、やらなあかんようになってくると思う。なかなか大変なことも聞いておりますし、ぜひお願いしたいと思いますし。

機能訓練事業で、今、身体のリハビリとか身体機能の保持、改善が見込まれる人を、月2回のリハビリ教室とかやっているんですが、その方々は重度、参加することが困難な人には理学療法士も訪問して、自宅でリハビリを行う体制が、この計画には載ってるんですが、そういうこともいけるような体制ってできんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

リハビリ教室につきましては月2回、青海地域にありますふれあいで実施させていただいております。その中には、障害の少し重い方も参加していただいているところでございます。

訪問リハビリにつきましても、必要に応じてお伺いしたいというふうには考えておりますが、リハビリをやっていただける方が少のうございますので、受け入れができるかどうか、今後ちょっと確認をさせていただきます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そういう方々、障害児もおるんで、それぞれタイアップしながら、こういうのもありますので、

ぜひいかがでしょうかというて、本当に体験も含めてぜひお願いしたいと思います。

それで2番目とかかわってくるんですが、小学校5年生から高校の3年まで、これをプレジョブと言いまして、1週間に1回・1時間、1企業・6カ月間の職場体験。それと職場体験に加えて月1回、公民館などで定例会を行うと。反省とかいろいろ基づいてプレジョブですね、これ小学校5年生から高等部3年までということで、週1回の1時間を続けてる先進地が岡山県にあるんですが、かなり今、新潟市とかいろいろな形で整ってきている。やっぱり日本一を目指すなら、そういう次の職場につながるような、このプレジョブをぜひお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

これまで県立上越特別支援学校とか、県立高田特別支援学校本校等で、職場体験を相当やってこられた実績があるかと思えます。特に中学部、または高等部というふうに承知しているわけですが、そういったところの実績を私たちも学びながら、当市においてどういうことができるのか、これは保護者、学校、そして地域の皆様の理解、職場、企業の皆様の理解が、相当必要かなというふうにも思うわけございまして、そういったところを今後考えながら検討させていただきたいと、そんなふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

検討と言われなくて、日本一の子どもたちをつくるということで、ぜひ町場へ出てそういうのも必要だと思いますので、ぜひ強く要望しますとともに、この24年度から旧青海町でやられとったファミリーサポート事業ですね、保坂 悟議員からもありました病児・病後児保育、これも糸病でぜひ受け入れもできんかなということと、先ほど言いましたプレジョブのサポーター、やっぱりファミリーサポーターとプレジョブサポーター、いろいろな方々のボランティアも含めて、先ほどやりましたデイサービスやショートステイを含めてリハビリ、かなり糸魚川にも作業療法士とか、いろいろな形で眠っている存在もいます。ぜひそういう方々も拾い上げて、そういう募集をして、勉強会も含めて、そういう形でみんな地域で盛り上げるような形というのはできんのでしょうか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

ファミリーサポート事業につきましては、現在、取り組んでいるところでございますが、子ども

たちを受け入れてくださるボランティアの皆様と、それから預けたいと思われている方のニーズがマッチしたときに、ファミリーサポートの事業が実施できるのかなというふうに考えているところではありますが、今後、そういった面で、障害のある子どもたちについても引き受けてくださる方がいらっしゃるように、また啓発に努めてまいりたいなど、そんなふうにも思っております。

プレジョブのサポーターについても同様ですが、理解をしてくださる方を1人でも多くふやしながら、そういった体制づくりができればいいなど、そんなふうにも思うわけでございます。

また、病後児保育についてもファミリーサポート同様に、それぞれのニーズ、思いが一致するところが条件かというふうに思っております。今後、理解を深めていきたいと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。

それで保護者の意見を聞くと、エスポワールはやかわも利用したい、それでやっぱり職員も目を離すときもあるんですね。医療的ケアとか含めて、それは職員に任せればいいんでしょうけど、保育士的な方々も常勤として療育も担当してほしい。そういう方々もやっぱり高齢者、60歳以上、退職された方々もいらっしゃると思うんで、そういう方々もぜひお願いしたい。

それとエスポワールもデイサービスの青海も受け入れしてくれるんですが、1日1人なんですよね。複数ができるような形もぜひやっていただきたい。今それぞれ施設、市民厚生でも見ていただいた。いろいろな形で複数の施設があるんですが、それも身体障害児もやっぱり車椅子で利用できるような、そういうデイサービスも。何カ所も全部つくれというんじゃないんですけど、絞って何カ所、複数選べるような体制もぜひお願いしたいんですけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市内には介護施設がたくさんございますが、議員ご指摘のとおり障害者に対する施設というのは少ないというふうに感じております。そんな中で、障害をお持ちの方が介護施設の中でどんなふうにして利用できるのかというものも、これから検討だと思います。また、介護施設自体が要介護度の高い方、また、認定を受けてる方が多くおりますので、そういう方たちの利用もしていただかなきゃいけないというところで、なかなか難しい面がございますが、施設のほうにお伺いして、状況を確認させていただきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺で状況を確認しながら、先ほどおっしゃいましたプレジョブサポーター、並びにファミリーサポーターの方々をどんどんふやしながら、そういう施設にも行っていただけるような体制も、ぜひお願いしたいと思います。

それで特別支援教育の関係で、今、普通学級で健常児に対して、こういう障害児、障害者がいてという、そういう教育ですか、学習の場って総合学習とか今やってるんですか。その辺、ぜひ行っていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

通常学級にも十人十色でありますので、お子様がおられます。障害があるとか、ないとかということに限らず学んでおりますが、一緒に学びながら、それぞれがお互いに影響し合いながら人格形成をしているというふうにとらえております。今後もそういった面では、お互いの理解をし合える場の確保、または場の設定等は、行ってまいりたいというふう考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、糸小ではある程度、併設してひすいの里分校でふれあいもできるんですが、今なかなかそういう形で全部が全部、各小学校、特別支援学級を含めて人数が多くなって、本当に教師も足りませんが、いろいろな形でふれあいがいいですね。私が思うには、やっぱり障害児、そういう心を育成していくというのは、そういう方々をきずなとかいろいろな形で、ふれあいながら学ぶということが本当に大切なと私もつくづく感じるんですが、ぜひやっていただきたいと、こう思います。

それと市民厚生で、戸田市、蕨市、両市で障害者雇用で週100名ぐらい、リサイクルフラワーセンター、これも委員長報告でもありましたが、そういう形で就労、雇用促進をぜひお願いしたいし、10月13日ですか、常任委員会の協議会でワークセンターにしうみの人から、今、ものづくりネットワークとのコミュニケーションもとりながら、大和屋クリーニングさんには15名、また、カネヨさんもリサイクルセンターを含めて、かなり今度やってると。今度はB型からA型の就労支援に切りかえるということをお聞きしてるんですが、それは高等部が25年9月にできるんで、白嶺の横に入る方々の給食とか、いろいろなことを言っておられたんですが、その辺はどうなったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

障害者の就労継続支援事業というものが糸魚川市に2カ所ございまして、その2つにつきましてはB型といって、継続型の支援をしております。A型といいますのは雇成型といまして、雇用の保険を掛けていただきながら、働きながら支援をしていただくという事業でございます。今、市内の中で1つの事業所さんが、そのA型の事業所を立ち上げたいというふうにお話をお聞きしていますが、はっきりとはまだお聞きしておりませんので、ここでは、ここまでにさせていただきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

決まったら、ぜひ早目に教えていただきたいのと、電化さんが表彰されて、いろいろな形で障害者も雇用されていると。それと今また木島組のペレット工場だとか、清さんが植物工場をやられている。また今後、一般廃棄物最終処分場等ございます。そういうのも絡めて、障害児・者は出ません、地元に残るんです、ぜひそういう形を。健常児みたいに外へ出ません、ぜひそういう面も含めて、障害児も暮らせる糸魚川にさせていただきたいと、こう思っております。

それともう1つ、次、移って救急のほうでございますが、救急外来棟、いつ完成して活用されるのか、その辺の日程とかスケジュール、決まっておったら教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

お答えいたします。

糸病では11月5日の月曜から、今の1階部分を使えるようにしたいということで、作業を進めているというふうにお聞きしております。また、あと市民の皆様には11月17日、土曜日ですが、見学会を開催したいということでお聞きしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで糸病へ救急車で搬送されるのは合計で何名、22年度ぐらいから教えていただきたいのと、重症者をどれだけ搬送しとるのか、糸病へは何名、重症者ですね、それをお聞かせ願いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

申し上げます。

まず、22年度でございます。救急搬送人数が1,908人でございます。うち糸病へ収容された方が1,720人で、およそ9割でございます。そのうち重症者数につきましては230人、うち糸病へ収容された方が177人で、約8割の方でございます。

続きまして、23年度でございます。救急搬送された方が1,906人、うち糸病への収容者が1,715人で、これもおよそ9割でございます。それから、その中の重症者数が205人、うち糸病へ収容された方が152人で、およそ75%という数字になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

お聞きしたいのが、今後11月に完成も含めてやられて救急患者の受け入れ、2.5次的救急医療をやると。そこで本当の救急専門医がおるのかどうか。糸病には何人いて、それらは常勤なのか非常勤なのか。今後、完成したらそういう方々を含めてふえるのか。さっき内科医とか、いろいろな形でふえるとおっしゃったんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

救急科専門医につきましては、日本救急医学会の定めるカリキュラムに従いまして、3年以上の専門研修を修めて、資格試験に合格した方に与えられる認定医でございまして、そのように限られたことから新潟県で、今、約30名の方がいらっしゃいますが、基本的には救急救命センター等にお勤めいただいておりますし、糸魚川総合病院には、今現在、救急科専門にはおりません。今、常勤の医師が28名いらっしゃいますが、外科、内科の方が交代で救急外来に当たりまして、対応させていただいているところでございます。

今回、救急外来棟ができて、ワークステーションで救急救命士も滞在いたしますことから、糸病の医師、看護師と連携しながら、スキルアップをしながら、当面は救急救命士が救急車に乗る中で、適切に車内から連絡をとる中で高度化に対応していきたいと思っております。

以上であります。

議長（古畑浩一君）

五十嵐健一郎議員の質問中でありましたが、昼食時限のため暫時休憩とし、再開を13時といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き、五十嵐健一郎議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

昼休みに救急訓練ご苦労さまでございました。

その関連で県のドクターヘリですね、糸魚川防災センターまで40分ということで、40分もかかれば、あんまり必要なくなると私は思いますし、途中でも断っていいという話もお聞きしたんで、ぜひ今後、第2機目は中越とか言ってるんですが、やっぱりぜひ上越地内に2機目を、上越3市で一丸となって進んでほしい。熱い行動をぜひとっていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

県のドクヘリの糸魚川市での説明会の折に、医師会の代表者の方も同じようなご意見を言っておられました。やはりドクヘリの場合には20分以内ぐらいで対応できないと、あまり効果がないんじゃないのかというようなご提案もありました。ただ、新潟県は今スタートしたばかりでございますので、責任者の遠藤教授のほうは、まず1機目を順調にスタートさせた上で、またその辺の対応をしたいというようなご意見も述べておられましたので、我々も今度機会をとらえまして、ご趣旨のような要望を強くしていくつもりであります。

よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

新潟市内ではドクターカーもございますし、あんまり新潟地区、下越地区には、秋田県寄りになれば必要になるんでしょうけど、中越圏内が20分ぐらいに必要な範囲ですので、ぜひ上越に2機目をもってきていただきたいと、こう思っております。

それが次、糸病で先ほどありましたように、救急搬送が1,900ぐらいで糸病へ1,700と、重症者が205名中、糸病へ152名ですか。割合的には、私は少ないと思うんですわ。救急病棟ができれば、ぜひこれをふやしていただきたいと思うんですが、だんだん少なくなっているんですね。重症者を搬入できるような体制もやっぱり必要だと思うんですが、救急専門医はいないということで、内科医や外科医で28名体制でやると言ってるんですが、私はやっぱりそれじゃハードつくってソフトなしろの気持ちでありますし、2.5次救急医療と銘打ってやるとするには、ぜひ救急専門医も含めて確保していただきたいんですが、その働きかけは富山大学、新潟大学

を含めて、ほかもどう交渉しとるんかわからんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今、議員さんおっしゃいましたように、本来、救急医療棟ができますし、医師、看護師も同乗するにはドクターカーが望ましいんだと思いますが、現状自体、医師、看護師に余裕はございませんので、これからは救急救命士が救急ワークステーションに滞在いたしますので、医師、看護師と連携してスキルアップしながら、搬送時、車中から病院への確な指示をすることによって、迅速化を図っていきたいと思っておりますし、救急科専門医についても、なかなか今現時的に数が少ないことの中では、今、糸病自体、2.5次化を目指しておりますので、糸魚川総合病院では常に医師、看護師の研さん、研修をされておまして、技術の向上に努めていただいておりますし、市といたしましても、医療の高度化に対応できるような医療整備に支援を続けてきておまして、そういう中で、レベルアップを図っていきたいと思っております。

また、医師の派遣については、市長が先頭になりながら富山大学や新潟大学に、いろいろと応援をしていただきたいことを要望させていただいておりますので、今後も継続して要望してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今の範囲で富山大、新潟大にお願いしても、先ほど申されたとおりの現状維持か、医師が増加という形がないんですね。私は富山大、新潟大が悪いというんじゃないんです。糸病にも獨協大から手術に来たり、いろいろな形で大学関係もネットワークがあると思うんですわ。糸病とともに市民も、行政職員も600名近くいますし、そのネットワークを生かして、やっぱり引っ張ってこれるような体制もできないと、2.5次救急できた、救急病棟できたって意味がないと思うんですわ。その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは2.5次救急医療に対して、今対応してるわけでございまして、それができても意味がないという話は、私もちょっと疑問に思うわけでありますが、やはり医師不足の中において今の連携を強めていくこと。そして当然、今、議員ご指摘の点についても行っているわけでございます。決して、それだけで終わりということではございません。

そのような形で厚生連と、また糸魚川総合病院、そういう中で、また連携をとらせていただい

て、今進めさせていただいてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ県のドクターヘリも受け入れを糸病でもされるということも聞いておりますし、いろいろな形で、今、リクルート関係とかそういうので医師確保もできるような形も聞いておりますし、そういうのも含めて全庁体制、全市体制で、ぜひ医師確保に奔走願いたいと思います。

それで、次に移るんですが、高齢者住宅の関係で、先般、連合区長会が行われて、いろいろな形で介護予防とか、健康維持の大切さを訴えられて、お茶べりくらぶとか、体の弱い高齢者を対象に、老人クラブも含めて、市長が答えられているような会員増には、老人クラブの特典も必要ではないかということをお聞きしたんですが、ぜひその辺、どういう体制が一番いいのかを含めて、お答え願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

介護保険料が今期、かなりの高い基準になっております。それを踏まえまして、今後、どういふふうにして取り組んでいけばいいかということが、大きな課題であるというふうにとらえております。

また、認定者を出さない取り組みの中に、健康づくり、または介護予防。健康づくりの中でも、高齢者の元気な人たちをふやす老人クラブの活性化、また、シルバー人材センターの育成についても力を注いでいきたいというふうを考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

市民厚生で、国保診療所と特養、おおさわの里を含めて、増床40床含めてやられると。私は本当にモデル的になると思うんですね。介護保険を上げるためにも施設はふやすなとか言われますけど、やっぱり必要なところは、要介護度4、5の方々が120名もおられるということになれば、そういう方々をバックアップできるような施設も必要。そのためにも今も特別養護老人ホームだけでなく、その近辺に、また自立型のサ高住や、住宅型の有料老人ホームをつくる形も、企業、株式会社に問い合わせ、いろいろな形で勉強会をやりながら、そのところに既存のところとやると。そしたら介護保険が上がらないところもあるんですね。そういう形で、今、上越市もサ高住は2カ所ですか、増床しております。そういう面を含めれば全国的になっとるんですが、都会のほうだけでなく、今、地方にも安いロープライス、7万円ぐらいでもやってるところがございます。そ

ういうのも研究して、ぜひ取り組んでいただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

議員のご指摘のとおり、今の既存の施設を生かしながら、近くにサービスつきの高齢者住宅を設置するということは、大変すばらしいご提案だというふうに感じております。

しかしながらサービスつき高齢者住宅につきましては、特別養護老人ホームと違いまして、住所地特例にはなりません。特別養護老人ホーム、または有料老人ホームでしたら、住所地特例といいまして、市外から入ってこられた方につきましては、糸魚川市の介護保険が適用にはなりません。サービスつき高齢者住宅につきましては、糸魚川市民となりますことから、市民の方の利用であれば介護保険の高騰にはならないというふうに考えておりますが、市外の方が利用した場合には、何らかの形で介護保険のほうに、はね返ってくるというふうに思っております。慎重に検討しなければいけないと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

サ高住は幅が広いんですね。介護度が軽い方から、ある程度介護度3ぐらいまで、そういう方も含めて、かなりの範囲を占める。その辺も含めて、有料老人ホームも含めて検討していただきたいと、こう思います。

それで最後にジオ学の関係で、この前、秋のモニターツアー修学旅行、先生方、日程とか、その辺の規模とか、教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

先生方を対象にしたモニターツアーですけれども、今、日本修学旅行協会を窓口にして、申し込みの準備に入っております。11月を予定しております。ただ、関東圏の先生方ですけども、現在どれぐらいの数というのは、まだまとまっておりません。予定としては十数名程度を含めまして、20名ぐらいまで来ていただければありがたいなど。ぜひ事業の拡大の糧にしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

いろいろな形で一般質問を皆さんやられてるんですが、小樽の職員で22年やられてて、今のほうの活性化伝道師になってる木村俊昭さん、その方は本当にメールとかいろいろ、毎日1,200のメールを打ったり、1年間に5,000名に名刺を配ったり、いろんな形で職員は私は大事だと思うんですわ。600人の方々がいらっしゃるので、知恵を使っていろいろな形で活性化になるように皆さんからご努力、巻き込んで、糸魚川市全体が最適化になるようお願いしたいと思います。

これで一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

午後1時14分 休憩

午後1時15分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、池田達夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。〔16番 池田達夫君登壇〕

16番（池田達夫君）

日本共産党市議団の池田達夫です。

発言通告書に基づき、大きく3点について質問を行います。

1、子育て支援についてです。

若く働く世代への子育て支援の拡充をさらに前進させる取り組み、また就学援助制度の充実をさらに進める取り組みが必要であります。

次の点についてお聞きをいたします。

(1) 子ども医療費の助成について。

通院助成も全員中学校卒業までへの拡充を実施すべきではないのか。

通院・入院の一部負担金をなくす（無料化）検討が必要ではないのか。

(2) 就学援助について。

案内文書の内容、申請用紙の配布方法などはどう改善され、申請はどれだけ増加したのか。

今後さらに、利用しやすさ、制度の周知を徹底するための具体策は何か。

2、並行在来線の問題についてです。

いよいよ北陸新幹線の開業まで3年を切りました。それに伴う並行在来線の問題も最終段階に入ってきており、この秋には運営会社の最終的な方針といわれるものが、明らかになるうとしており

ます。

そこで地域に愛され、持続可能な鉄道を目指して、この段階で今何が求められているのか、残された課題は何かがあるのかについて、今までの問題も含めて、改めて次の点についてお聞きをいたします。

- (1) 「えちごトキめき鉄道株式会社」の「運営方針」について。

利便性における、運賃の値上げ、運行本数、優等列車の存続はどうなるのか。

収支予想における、糸魚川市の負担はどうなるのか。

電化区間にディーゼル車の運行は、本当に必要なのか。

- (2) 糸魚川市の方針はどうなるのか。

「地域に愛され、持続可能な鉄道をめざして」、何がどう検討されてきたのか。

「大糸線・北陸線を守る会」等との連携は、どこまで進んでいるのか。

直江津駅までの新型列車（交・直流両用）の運行はどうなっているのか。

- (3) ディーゼル車とトンネル区間の安全対策は、どう検討されているのか。

北海道・石勝線事故（昨年5月）から、ディーゼル車の国の安全対策はどう生かされるのか。

非常時の避難路になる「斜坑」の安全性は十分に確認されているのか、「斜坑」の出口周辺の問題はどう改善されるのか。

頸城トンネル、これは全長11.353kmあります。頸城トンネル内での非常時の対応はどうなるのか、どこまで検討されているのか。

- 3 垂直離着陸輸送機「オスプレイ」の低空飛行訓練についてであります。

「欠陥機」とも言われる米軍の輸送機オスプレイの、日本の航空法をも無視した危険な低空飛行訓練が、全国的に行われるとの報道がなされております。

その中で「ブルールート」と呼ばれる飛行ルートが糸魚川市域を通過し、しかも「ポイント」として「目標」にされようとしております。

この低空飛行訓練について、糸魚川市はどのような態度を取るのか。次の点についてお聞きをいたします。

- (1) ブルールート・ポイントの「新小滝川発電所」の把握はされているのか。

- (2) 飛行ルート下の周辺自治体や新潟県との情報交換はされているのか、共同した行動が必要ではないのか。

- (3) 市民の安心・安全を守る立場から、低空飛行訓練の中止を求めるべきではないのか。

以上です。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後1時20分 休憩

午後1時21分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子育て支援のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくをお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、田中議員のご質問にお答えしたとおりであります。

2点目の1つ目につきましては、市として安定した経営や利便性の向上をお願いいたしておりますが、経営計画を検討中であります。

2つ目につきましては、連携や協力できる部分については、一体となった取り組みが必要ととらえております。

3つ目につきましては、富山県の会社は乗り入れる区間を糸魚川駅までといたしております。

3点目の1つ目につきましては、今後、石勝線事故を受けて国からの指針等が出れば、それらを取り入れて安全対策を検討してまいります。

2つ目と3つ目につきましては、現在の水準以上を維持するよう会社に要請をいたしております。

3番目の1点目につきましては、新潟県からも国に問い合わせをいたしてるところでありまして、詳細は、まだ把握できておりません。

2点目につきましては、随時、情報交換をいたしております。

3点目につきましては、現段階では、詳細な情報を把握できておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からもお答えいたしますので、よろしくをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、他市町村の動向を踏まえ、拡充について検討してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、引き続き、一部負担の継続を保護者をお願いしてまいりたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、23年度から案内文書をわかりやすくし、全児童生徒へ配布するなどの改善をしております。この結果、申請は22年度に比べ2.4%増加しました。

2つ目につきましては、ホームページへの掲載により、多くの方への周知に努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

1番目の子ども医療費の通院の助成です。全県内のほかの市町村の様子を見ながら検討していきたいというお話でありました。通院ではなくて入院の助成は高校卒業までということで、大きく前進しております。これは新潟県内30市町村の中で1番であります、この点は評価をいたします。関係者の間でも有名な話となっております。そこで、次はやはり通院の助成、これもさらに拡充するという立場で、今お聞きしたわけです。

現在お聞きしますけども、子どもが3人以上いる世帯、この数、どのぐらいになるのでしょうか。少子化ということが盛んに言われております。もう1つ、一方でこの通院を全員中学校卒業まで助成すると拡充した場合の金額の増加分、概算どれぐらいになるか、この点についてお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

1点目の兄弟3人いる家庭数ということでございますが、大変申しわけありません、今、数字を把握しておりませんので、後ほどお答えさせていただきたいと思っております。

次の小学校6年生まで通院の助成をしておりますが、それを中学3年までというふうにした場合の費用の概算ということでありますが、およそ1,300万円ほどというふうに把握しております。以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

1,300万円。少ない額では、決してももちろんありませんけども、逆に言えば1,300万円をつぎ込めば、思い切って全員中学校卒業まで通院の場合は可能ですよ、助成できますよという制度に切りかえることができるわけですね。この1,300万円を、どう見るかということになると思います。

県内でも通院は中学校卒業まで全員、つまり3人目の枠がないというところは、17市町村まで広がっております。30市町村ありますので57%、これは4月以降の予定されているところも含めてですけども、やっぱり県内の大勢というのは、そういうふうに動きつつあります。いかがでしょう、もう一度検討をさらに進めていくという立場に立てないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、他市町村の中学3年までの拡充が広がってきておりますので、本市といたしましても、その点を十分踏まえながら前向きな検討をしてみたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

2番目の問題、通院、入院のいわゆる一部負担をなくする、完全な無料化、この検討も今ほど言いました。これはあくまでも助成であり、保護者の一部負担はあるわけであります。

そこでお聞きしますけども、この個人負担、一部負担、これを取っ払った場合、金額の増加というのはどれぐらいになるのか。ここ数年の実績から概算で幾らと算出されているのか、そこをお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

概算になろうかと思いますが、小学校卒業までを見通した場合に約1,540万円ほど、中学校卒業までとした場合には、1,960万円ほど負担増になるというふうにとらえております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

これも大きな数字であるわけですが、ここを全体としてどのようにとらえて推進していくかということになるかと思えます。

子ども医療費助成一部負担金状況という資料を、私、持っております。県内の状況、あるいは全国的な数値を紹介したいと思います。

県内では、一部負担のある自治体は30市町村、つまり無料化の自治体、新潟県内ではゼロであります。全国的にはそれぞれの都道府県、100%の自治体で一部負担あり、つまり新潟県のようなケースは大阪、鳥取、長崎、新潟を含めてわずか4府県、逆に100%の自治体で無料化が実現されているところが、群馬、岐阜、和歌山、香川、愛媛の5県、これも少ないですけども、となっております。

全国の自治体数1,742市区町村ありますが、これを全体で見ると一部負担ありが834自治体、一部負担金なしが900自治体となり、一部負担金なしという自治体が52%で多数を占める、そういう状況であります。この傾向は今後も増加していくでしょう。これが全国の大きな動きになっております。

糸魚川市としても、このような全国的な動向も踏まえながら、そして今、同時に日本一の子育てを大きなスローガンにしております。この一部負担をなくして、この日本一への大きな道を切り開く、出発点に立つことが求められていると思います。ぜひとも検討され、全国の動向も見ながら、その大きな一步を踏み出すことを希望いたします。

2番目の就学助成についてであります。

この間、改善されたというお話を聞きました。私も2年前のこの場で取り上げて妙高の例、上越市の例なども紹介しながら話をさせてもらったところでもあります。たしか事前にお話を聞いたところによりますと、23年度は347人、10%とあります。10%といえば、この援助を受けている方は10人に1人という勘定になるかと思えます。潜在的には、もっとあるかなという気がいたしますけれども、その辺の該当する、あるいは該当しそうな世帯、これ具体的な形で把握されておりますか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

前回22年度から、この申請書の配布方式を全保護者に配布するという形にいたしましたところ、先ほど答弁しました2.4%の増ということになっております。基本的には全世帯に配布しておりますので、この制度はそれなりに周知されているものと思っておりますので、今申された10%が、実態なのかなというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

私、何カ月か前に糸魚川総合病院へ行く機会がありました。糸魚川総合病院の受付の事務員の後ろの壁に、糸魚川総合病院の話ですよ、上越市の子ども医療費の助成の掲示がしてありました。上越市では、こうなっておりますという制度を紹介してありました。私、糸魚川の病院で、どうして上越の子どものことが書いてあるのかなという気がいたしました。

糸魚川市でもこういう制度、前進している制度があります。病院の協力も得ながら、病院のあちこちとは言いません、少なくとも目につくところに、お父さん、お母さんたちに、より徹底するような方法をとってもよろしいんではないかと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、当市の中に他市の制度についての説明文書があるということでありま

すので、それに負けない制度を糸魚川市でも設定しているわけですので、今後、そういった周知できるようなものを、考えてまいりたいというふうに思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

この就学援助をさらに拡充していただきたいという立場からですが、学校教育法の19条、ご存じだと思いますが、経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童、または学齢生徒の保護者に対しては、市町村は必要な援助を与えなければならないということがうたわれています。今回のこの就学援助制度も、この法律に基づいてつくられているものだと思います。糸魚川市としても、さらに充実していく、こういう検討をぜひともしていただきたいと思います。

この点で国から2010年度から、この就学援助制度に対して、次の3つの項目が追加になっております。1つはクラブ活動費、2つ目は生徒会費、3つ目はPTA会費、この3項目が追加になっております。糸魚川市の現在のこの制度、この項目はありません。やっぱり取り入れるべく検討していただきたいと思いますが、今どのような状況で、どのような考え方をされておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今ご指摘の3つのクラブ活動費等でございますが、県内の市町村でも、それぞれの取り扱いがばらばらになっております。今後、また財政とも協議しながら、検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

ぜひとも大きなところでの検討をお願いしたいと思います。

若いお父さん、お母さんへのやっぱり強い大きなメッセージになるかと思えますし、同時に、今は子育て、共稼ぎの世代でありますので、おじいちゃん、おばあちゃんへも大きなメッセージ、励ましになる、こういった制度の拡充だと思います。ぜひとも検討していただきたいと思います。

そのことをお願いしまして、2番目の並行在来線の問題について移ります。

いろいろのお話ありましたが、先ほどの田中議員の質問への答えもいろいろありました。やっぱり今、一番気になるのは、秋ごろに新しい会社の方針が確定され、発表されるという中で、議会では、この9月議会が最後の議会ですね。この議会の中で、あるいは委員会の中で議論されてきたこと。対話集会の中で出てきたいろんな意見、要望、市民の皆さんからの声、それが最後、この9月

の議会になるわけですが、それがどう秋のその発表に反映されるのか、そのところをお聞きしたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

市長もお答えしましたように、前回の説明の中では秋ごろ、今回は大まかな期間の中では秋ということですが、9月から11月までの秋の期間がありますが、今のところ私どもにも、私どもも急ぐようお願いはしとるわけですけど、公表というか、示されていないというところが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

もう確かに秋ですね。11月まで秋は秋で幅は広いんですが、秋の初めなのか、真ん中なのか、入り口なのか、そのところ最新の情報っていうのはありませんでしょうか。

大糸線・北陸線を守る会との連携についてです。

この会の人たち、上越市全体の在来線の存続、地域の振興、発展を求める地域の連絡会、妙高、直江津、頸城ありますけども、これらの人たちと一緒にアンケート活動を行いました、先ほども紹介ありましたけども。このアンケート、今、中間的な集約で、私、ちょっと概略のお話を聞く機会があったんですが、やはり今までこの守る会の人たちが問題提起をしてきたこと、皆さんに訴えてきたことが、そのままじゃありませんけど、アンケートの答えの中に反映されている、そんなことを痛感いたしました。

個別の数字は、先ほど田中議員から紹介がありましたんで、私、述べませんが、市長は先ほどの答弁の中で、いろんな方向になれば、物すごくいいなと思いますということを感想的に述べられましたけども、私はもちろん、これも大事です。これはただし市長の願望に終わらせるのではなく、このアンケートの結果、あるいは以前から大きな世論があるわけですが、それを踏まえて、こういった方向で私は市長として頑張りたい、そのような決意の表明のあらわれの1つであると私は理解したんですが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

決意ということではございません。一番私が理想とする1つの姿であるにとらえるわけでありませんが、しかし、我々も運営する側、そしてまたこの並行在来線を受け持つ部分としてあるわけがあります。しかし、そういう中で今進めておる中において、果たしてそれが今までの詰めてくる中において、全てはその中に入っていけるのかと、私は非常に疑問に思うわけがあります。

そういったところを考える中で、その理想は理想として当然と思うわけですが、どのようにまとめていくかということで、またいろいろ情報収集する中においては、非常に私はハードルが高いととらえておるわけであります。

そういう中で、我々はどこまでお願いをしていくか、要望していくかということだろうと思ってわけでありますが、しかし、なかなか依然として具体的なものはないわけでありまして、我々も皆様方と同じように早く具体的なものを示してほしい。そしてその中で論議をしながら、今言われておるようなことも話の中で出しながら、まとめていかなくちゃいけないととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

新しい会社の取締役であります本間副市長にお尋ねする形になるかと思いますが、今、この会社の中では秋ごろまでに、11月まで一番お尻はあるんだそうですが、どの段階まで、どのような議論がされてきているのか、なかなかオープンにできない部分はあると思いますが、どんな段階に今あるのか。もう1つ言えば、いつごろ、どのような形で公表されることになるのか。その辺の具体的なスケジュールと中身をお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほど田中議員の質問の中でもお答えしましたように、6月の取締役委員会の中でも早く計画をつくっていただきたいと要望し、その後、会社ではいろんな角度から調整しているというふうに思っております。ですが、なかなか新たな数値等が見えないということであります。

1番はやっぱりいろんな機会に県知事が、3月の後半ですか、国から780億円を並行在来線で確保したということの話を、いろんなときに話をしております。それらの反映がどういうふうにされるかということが、一番重点なんだろうというふうに推測しておりますが、今のとこまだ日程、あるいは内容については、具体的なものは出ておりませんので、先ほど言いましたように9月28日、次回の取締役会があるわけですので、その中に出てくるのか、あるいは逆に出なければ、早く示すようにまた働きかけをしていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

ぜひとも早く出なささいということと同時に、中身もしっかりと今までの世論、あるいはアンケートの結果、あるいは議会の中でのいろんなものも大いに正面からぶつけて、本当に安心・安全な鉄道をつくっていく、そんな中身にしていきたいと思っております。

具体的にお聞きしますけども、非常時の避難路になる斜坑の安全性について、市長の答弁ですと、現在の水準以上ということしか、私、ちょっとメモしていなかったんですが、ここでも私言っ

すように、やっぱり斜坑そのものの安全性と同時に、斜坑を出たときのあのあたりの周辺のもの、幹線道路へのアクセス、駐車場の広場、緊急車両が来て、いろんな処置もできる場所、地域住民への協力その他、そういったもの。いよいよこの段階まで来て、何か検討される、そういった着手されたことはあるんでしょうか。あるいは、そうでなければ、いつごろ、どのような形での検討になるのか、これ安全の問題ですからお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

運行の安全性については常々、今以上ということをお願いしとるところであります。今の斜路の出口とか、そういうもの、そういう施設。この鉄道施設そのものが、今現在、JRという大きな組織の中で、鉄道の基準に沿って使用されているところございまして、並行在来線の会社がそれ以上のものを、今以上に拡大して果たしてできるかというのは、その辺もまた経営計画とか、そういうものにかかわってまいりますので、今のところ、今、池田議員おっしゃられましたような、出口に何々をつくるとかということの中での検討は、私どもお聞きしておりませんし、まだそこまではいってないのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

前回の議会の私の質問の中の答弁と全く変わってないところで、この数カ月間、3カ月間の中でも、そういったものをやっぱり具体的な形で並行して検討していく、そんな機会というのは持つべきであると思いますけどもね。そうすると、非常時の頸城トンネルの話聞いても、同じような答えになるんでしょうか。

それじゃお聞きしますけど、今のJRの中では頸城トンネルの中で、例えば不幸にして、あってはいけないことですが、列車が火災になった。1.5キロの暗い中を、歩いて線路の中を避難する。そして斜坑を見つけて、そこを登っていく。そのような実際的なマニュアルは当然あると思いますが、今の段階では、じゃあJR側として、そういったものの実際の現場での訓練というんですかね、避難訓練、そういったものを何かされているんでしょうか。そこをお聞きしたいと思います、それでは。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

危機管理を担当する消防本部といたしましては、頸城トンネルの中にある筒石駅を含む3つの避難路等につきましては、現地を確認しておりますし、どんな設備であるかということにつきましても、職員が確認をしているというのが今の現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確認はもちろんやってもらって結構ですし、必要なことと思いますが、私聞いたのは、JRとしてのマニュアルに基づいた、そういった避難訓練的なもの、あるいは避難訓練、そういったものは、長いトンネルの中でのそういった斜坑の避難路も使ったもの、実際に現場でされているのかということをお聞きしたんで、それに答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

糸魚川・直江津間での、そういう避難訓練等はやったというのはお聞きをしておりませんが、もし必要であれば、そういうものを情報として収集はしなきゃならんというふうに思っておりますが、今までの話の中では、トンネルから早く列車を外に出すのが第一義だというようなお話を聞いております。

それから先般の新聞等では、ほくほく線のほうでもトンネルのいろんな訓練をしたということも記事等で読んでおりますし、柏崎で、鯨波の辺でも、そういう非常時の訓練をしたということを知っておりますので、今のJRでの安全基準の中で、どのような位置づけになっているかということをしつかり踏まえながら、新しい会社に引き継ぐというのが、まずは第一義かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確かに大きな事故がないことは祈るし、本当にそうあってほしいんですが、万が一ということがありますしね、そういったことも想定した、今はいろんな形での分野での安全神話というのは崩れてますけども、やっぱりこの訓練をしなかったことによって、大きな犠牲が、さらに大きくなったということがないように、私はやはりこれは必要だと思います。やるべきだと思いますので、大いに会社の中で提言をしていっていただきたいと思います。

この問題の最後に、北日本新聞、これは富山県の新聞ですが、ことしの7月19日付に、肥薩オレンジ鉄道、古木社長に聞く。「こき」という字は、古木と書きますけど、古木社長に聞くというインタビュー記事がありました。ご存じかもしれませんが、この肥薩オレンジ鉄道といいますと、本社は熊本県にありますけども、今回のこの新潟県のえちごトキめき鉄道株式会社の嶋津社長が、以前に社長をしておられた鉄道会社であります。その今の社長がインタビュー記事を受けてます。

その中で、この古木社長は、三セク会社にとって大切なことは何かと問われて、第1に安全だ。乗客に死者を出すような事故を万一起こせば、会社は消滅してしまう、このようなことをおっしゃっておられます。もちろん、次に利便性、最後は採算性、このようなことも続いて述べておられますけども、同時に、トップに求められる役割は何かということに対して、トップは必ず現場を見る

こと、現場の声をすくい上げて国や県に訴え、経営に反映させることだ、このようなことを強調されています。私はこのインタビュー記事、非常に興味を持って読ませさせていただきました。読まれてなければいいんですが、ぜひとも取り寄せて読んで、これからの会社の運営に、安全対策に生かしていただきたいと思います。

最後に、3番目の問題、オスプレイの問題についてお聞きをいたします。

オスプレイ、今、連日ニュースでも新聞でも大きく報道されておりますし、一番新しい話ですと、けさの話では、沖縄基地への配備が当初の見通しよりも、ちょっとおくれるのではないかということ。あるいは昼のニュースでは、きょう防衛大臣がアメリカの調査事故のレポートを見て、ああ言った、こう言ったというようなことが報道されてます、連日のように報道されてます。

オスプレイ、大きさは18.9メートルと27.8メートル、高さ7メートルといいますが、恐らくこの議場よりも一回り大きな、25メートルプールよりも大きいと言われておりますけども、そのような25メートルプールよりも大きな飛行機が、空から降って落ちてくる、これが今、大きな問題、危険だということが言われているわけでありまして。たくさんの事故を起こしております。

そしてこのオスプレイ、アメリカ国内では何と言われているかということ、ウィドーメーカーと呼ばれているんですね。つまり、未亡人製造機と呼ばれているんです。これは開発段階からたくさんの事故を起こし、多くの若いアメリカの兵隊さんの命を奪っている、そういうところからつけられたのが、このウィドーメーカーという名前なんだそうです。こういうところも踏まえて、私、この問題、大変大きな問題があると思います。

先ほどお聞きしました。詳細は、まだこれからということですが、このポイント になってます新小滝川発電所、この状況、どこにある、どんな場所でしょうか。そして、それはこの市役所から何キロ離れているところにありますか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

新小滝川発電所につきましては、148号を上っていきますと大正橋を渡って右側に折れる、最初に見えてくる発電所が、新小滝川発電所でございます。何キロあるかということにつきましては、ちょっと今はかっておりませんので、直線で7、8キロ以上あるんでしょうか。14キロほどだそうでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

十数キロありますね。ここを起点にすれば、私の家へ帰るよりも近いぐらいの距離ではないでしょうか。十数キロの距離、飛んできて、あっ、ちょっと行き過ぎましたといったら、この市街地、市役所のこのあたりに来る可能性も絶対ないとは言えない、そういった距離であるかと思えます。

私も先日この発電所、東京発電でよろしいんですね、やはりあそこですね、あそこを見に行つて

いきました。小滝川と姫川が合流するその地点であります。だから、そこがわかりやすいから、ポイント というのは進路の切りかえ地点、ポイントという意味ですが、そこに選定されたのかなという気がいたしました。当然、入り口には「関係者以外立入禁止」という提示がありましたけども、いくらオスプレイが低空飛行で来るといっても、英語での表記もありましたけども、オスプレイが低空飛行で来るといっても、パイロットの方は読むことができない小ささだったと思います。やはり立入禁止区域になっているところでもあります。

関連市町村との連携ということで、新潟県ではこのブルールートといわれるもの、7つの市町村が通ります。ご存じでしょうか。粟島から来まして、村上市、阿賀町、魚沼市、湯沢町、妙高市、そしてこの系魚川市の7つの市町村です。具体的に何か情報交換してるとか、県から何か指示があったとかということはございませんか、改めてお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

この件につきましては、県の副市長会があったときに、やっぱり新潟県内を通るということで、いろんな情報を、県を通して各自治体に情報を流してもらいたいということの要請をしております。まだまだ、なかなか1自治体から、これの情報を得られないわけです。県が先頭になっていただいて情報を得る中で、いろんな対策をしたいということで、それぞれ関係市の中でも同じようなことを言われまして、県を通じて情報をいただくことになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確かに、それも大いに追求して行ってほしいと思いますが、7月19日に全国知事会というのが開催されました。この中でMV-22オスプレイの配備及び飛行訓練に関する緊急決議というのが、全会一致で行われました。

その中では今言われたように、関係する自治体や住民が懸念している安全性については、まだ確認できていない現状においては受け入れることはできないと、配備、受け入れに反対を表明しました。

その中で、政府または防衛省から、関係自治体に伝えてくださいということ。あと国会答弁でも、防衛大臣が関係市町村に説明をしていくという答弁をしています。実際に系魚川市にありませんか、もう一度確認します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

県の市長会を通じまして、新潟県知事に情報をいただきたいというようなことで、先ほど副市長

もお話したと同様なお願いもさせていただいているところでございます。

現在いただいている情報については、モロッコで起きましたオスプレイの事故の原因調査の内容のものはいただいておりますが、それ以外のものは、まだいただいていないというのが状況でございますし、妙高市さん、大町市さんあたりとも、いろんな情報交換をしておりますけれども、同じような対応をとっておられるというのが現状でございます。

そういう中で、まだ中身について具体的に理解をしておらない状況の中では、先ほど市長が申し上げた考え方でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

このブルールートを長野県側も通るわけですが、このポイントのこの糸魚川を通りますと、南下して富山県の黒部ダムに行きます。その途中で長野県も通るわけですが、長野県では長野県市長会、これが8月31日の総会でオスプレイの飛行訓練について、安全性への懸念が払拭されるまでは、飛行訓練をさせないという決議をしました。長野県では飯山市がポイント 番になるんですかね、ほかにすぐ私たちの隣であります小谷村、白馬村、大町市など10の市町村が、そのルート下にあるわけです。長野県の北部地域との連帯というものを、県を越えてこのブルールートの中で連携していく、そんな必要も私は今の段階ではあるんじゃないかと思えます。

市長、どうでしょう。ここは強いリーダーシップをもって、県内の市町村、あるいは長野県北部の市町村も巻き込んで、こういったものの安全性を確認していく。必要な飛行訓練をやめてください、こういった動きにもっていく、そういったところでのリーダーシップを発揮していただきたい、発揮すべきときではないかと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

今ほどお答えしているとおり、今、情報収集をしている段階でございます。連携もとらせていただいておりますし、また、さらに塩尻市で行われた長野県市長会の情報も得とるわけでございまして、そのように今連携する中で、どのように動いていけばいいかという話もさせていただいてるわけでございますので、いつやるかというのは、まだこれから検討しなくちゃいけないと思ってる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確かに、急を要する緊急の課題の1つであると思えます。先ほど言いましたように、ちょっとやっぱり世論が反対、やめてくれという世論が多いので、ちょっと見送りといいますか、先延ばしになる可能性はありますけれども、そんなことは待っておれません。素早い行動をお願いしたいと思

ます。

このオスプレイについて世論の調査が出ております。8月の調査であります。このオスプレイの配備に反対するというものが時事通信の調査では58%、共同通信の調査でも70%の方が、このオスプレイの配備に反対する、そのような数字が出ております。また、このオスプレイの配備に反対ないしは慎重な意見が出ているのは、7月の中旬の時点ですけども、24都道府県となっております。

一昨日の9日の日に沖縄で、このオスプレイの配備に反対する県民集会が開かれました。10万1,000人が参加、また、宮古、八重山地方では、同時開催された集会と合わせて10万3,000人の県民の参加があったそうです。これは恐らく沖縄の本土復帰後に開かれた米軍基地関係の県民集会では最大規模となっている、このような報道がされております。

今後さらにこのオスプレイの配備、低空飛行訓練の計画の全貌が明らかになっていけば、反対する世論も大きくなりますし、あるいは反対する自治体もさらにふえていく、そういったことが私はあると思います。

こういったことを踏まえて、先ほども言いましたように素早い行動、安全性についての確認、そして低空飛行の確認、それが不十分なときは飛行訓練を中止してください、そういった行動を素早く起こしていただきたいと思います。

アメリカではこの低空飛行訓練では、事前にルートや計画が公表され、野生動物や遺跡への環境影響調査が行われるんだそうです、アメリカ本国では、アメリカでは、そしてアメリカのニューメキシコ州やハワイで訓練が中止になった、このようなことも言われています。

訓練ルートや計画を公開させるべきですけども、日本の防衛大臣は、それをどうも拒否しているようであります。こうなると日本の国民は、アメリカでは野生動物への影響調査等が行われるということですから、日本の国民はアメリカの野生動物以下なのか、こんな声が国会で出ているんだそうです。そのとおりになるかもしれませんね。やっぱりこの問題、安保条約の是非を問う問題に大きく発展していく、そのような可能性がありますし、現に各地からそのような声も上げられております。

先ほども触れました一昨日の沖縄の県民集会で、壇上に女子学生が登り、切々と訴えたそうです。この青い空はアメリカのもので、日本政府のものでなく、私たち沖縄県民のもので、日本政府のものでなく、アメリカのものでありません。私たち沖縄県民のもので、切々と訴えられたそうです。このきれいな空に軍用機を飛ばすことを、私たちは決して許しません、このように訴えたそうです。私はこれに1つつけ加えます。この青い空は、私たち新潟県民のもので、そして糸魚川市民のものであります。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、池田議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を午後2時15分といたします。

午後2時02分 休憩

午後2時15分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。〔26番 新保峰孝君登壇〕

26番（新保峰孝君）

日本共産党議員団の新保峰孝でございます。

私は原発事故への対応、介護施設と介護保険、ごみ減量化、子ども医療費軽減について、米田市長の考えをお聞きしたいと思います。

1、原発事故への対応について。

東日本大震災から1年6カ月となりました。10日現在、死者は1万5,870人、行方不明は2,814人、被災者約34万人が、いまだに避難生活を強いられているとのことであります。福島第一原発周辺自治体では除染作業も進んでおらず、警戒区域が解除されても自宅に戻るめども立っていない方が大半とのことであります。

復興事業の7割をゼネコンが請け負っていると言われておりますが、岩手、宮城両県の瓦れき処理も、ゼネコン任せの瓦れき処理が、おくれの原因になっているとの批判が強まっているとのことであります。復興においても地元の企業にやってもらうようにしなければ、復興の意味が薄れてしまうのではないかとともに思います。重大な原発事故の問題もありますが、阪神・淡路大震災の復興に比べ瓦れき処理施設にしても国の対応が遅く、責任は重大であります。放射能汚染汚泥処理も除染技術を活用するなど、国の責任で行うべきと考えるものであります。

項目に沿って伺います。

(1) 原発事故による放射能汚染への対応策をどのように行っているか。

子どもたちへの放射線の影響が心配されておりますが、妊婦、乳幼児、保育園、幼稚園、小中学校等への対応、保護者への情報提供はどのように行っているか。

市内の放射線測定をどのように行っているか。外部被ばく、内部被ばくを考えた測定になっているか。市民へのお知らせはどのようにしているか。

農産物に対する対策はどのようにしているか。

(2) 放射能汚染汚泥の処理についての対応はどうか。

電気化学工業株式会社、明星セメント株式会社への上水道放射能汚染汚泥処理について要請があるとのことでありますが、放射能汚染汚泥の量、搬入期間等は明らかにされているか。

下水汚泥処理も含め、市として対応策をどのように考え実施しているか。

説明会では食品基準と同じ100ベクレル/kg以下の汚泥なので安全とのことと言わ

れておりますが、食品と汚泥を一緒にして市が責任を持てるのか。

セメント製造プラントで処理すると放射性セシウムがセメントへ混入されるので、煙突等から外部へ出る放射性セシウムはほとんどないとの説明であります。実証試験はなされているのか。

市による放射線量測定箇所を増やす、工場への立ち入り調査ができるようにする、検査機関から直接市へ報告が来るようにすること等、市民の安全を確保するための手を尽くしているか。

公害防止協定があるとのことではありますが、放射能汚染汚泥処理に対応できるのか。

放射性物質処理の基本は、封じ込めと拡散防止であります。市民の安全安心を考えれば、放射性物質を含まない汚泥処理に限るべきではないか。

(3) 今後の原発事故を想定した対策についてどのように対応しているか。

柏崎刈羽原発、志賀原発等、今後、原発事故があった場合の対応が必要ではないか。どのように考えているか。

避難についてはどのように考えているか。避難計画について検討したか。屋内退避についてはどうか。

ヨウ素剤の配備方法等、3.11の教訓から改善を図ったか。

30キロ圏外であっても国による財政措置を求めるべきでないか。

(4) 3.11以降、国民の大部分が原発ゼロを求めるようになってきております。原発に依存しないエネルギー政策について、米田市長はどのように考えているか。

2、介護施策と介護保険について。

(1) 国による療養病床削減や姫川病院倒産などで、地域医療の後退が介護分野へ影響していると考えますがどのように捉えているか。

(2) 介護を要する方たちの要望に対応できているか。

(3) 収入が減り続ける中で各種市民負担が増えております。低所得者に対する保険料・利用料の減免を行うべきではないか。

(4) 今後の介護保険料大幅引き上げを避けるためにも一般会計からの繰入を検討すべきではないか。

(5) 国に対し国庫負担割合の引き上げを強く求めるべきではないか。

(6) 健康づくりの取り組みを強化すべきではないか。

3、ごみ減量化について。

(1) ごみ排出量の現状と減量に対する基本的な考え方はどうか。

(2) ごみは資源であり、分別の改善、徹底が大事と考えますが、今後どのように取り組む考えか。

(3) 生ごみ処理については様々な減量化の方法があります。地域、家庭と学校、事業所等、居住環境、条件により様々な処理方法の組み合わせを考える必要があると思いますが、今後の取り組みの方向はどうか。

(4) 減量化することにより中間処理施設も規模を小さくすることができます。次期中間処理施設をどのように考えているか。

4、子ども医療費軽減について。

(1) 入院については高校卒業までとなり大きく進みましたが、通院については小学校卒業まで及び3人以上の家庭では中学校卒業までになりました。

全員を中学卒業までにした時、上積みされる費用はどれくらいか。

(2) 通院も中学卒業までとすべきではないか。

(3) 一部負担金をなくすべきではないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目と2つ目につきましては、県のモニタリングポストの測定などのほか、市では8カ所で定期的な空間線量の測定を行っております。また、食品などに含まれる放射性物質検査につきましては、給食食材の月2回の検査を行っており、それらの結果は「広報おしらせばん」やホームページで公開いたしております。

3つ目につきましては、市内で販売されている農産物などについては、県が定期的な抽出検査をしておりますので、その結果についてもあわせて公表いたしております。

2点目の1つ目につきましては、現在の保管量は把握しておりますが、今後の搬入総量、搬入期間については推定できてない現状であります。

2つ目につきましては、市といたしましても定期的な空間線量を測定し、測定値に変化がないかを確認するとともに、その結果を公表して、市民の不安を取り除いてまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、1キログラム当たり100ベクレル以下を市民にわかりやすく説明するために、国が定めた食品の基準を引用したものであります。

4つにつきましては、既に上水汚泥の処理を実施いたしておる関東地方のセメント工場などの測定結果からも、放射性物質の放出は確認されておられません。

5つ目につきましては、市民の安全・安心を確保するため、関係者と協力して手を尽くしてまいります。

6つ目につきましては、公害防止協定書には公害が発生した場合の責任等が定められておりますことから、協定書により対応できるものと考えております。

7つ目につきましては、セメント処理が汚泥処理の1つであることから、市としても測定体制を強化するなど、市民の安全・安心を前提とし、受け入れを判断していきたいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、県及び県内市町村による研究会により、対応について継続して検討しているところであり、志賀原発につきましては、今後とも県を通じ連携強化を図っていく必要があると考えております。

2つ目につきましては、県内市町村の研究会で実効性のある避難計画について、屋内避難を含め検討中であります。

3つ目につきましては、市役所、能生事務所、青海事務所に、市内に必要な量、器具を分散して

保管しており、緊急時には速やかな服用ができるよう、医師、薬剤師の協力について調整をいたしております。

4 点目につきましては、原発からの距離にかかわらず、財政的措置を含めた対策全般を国が責任を持って行うべきと考えております。

4 点目につきましては、現在、国において検討されており、動向を見守っていきたいと考えております。

2 番目の 1 点目につきましては、青海病院が介護老人保健施設へ転換となりましたが、介護給付費への影響はなかったと思っております。また、姫川病院の閉院に伴う、介護分野への大きな影響はなかったものと思っております。

2 点目につきましては、特別養護老人ホームへの入所希望者が多く、要望に応えられてない現状があります。

3 点目につきましては、現行制度において低所得者の軽減措置を講じていることから、さらなる減免は考えておりません。

4 点目につきましては、介護保険法の規定に基づき一般会計から繰り入れしております。

5 点目につきましては、安定的な介護保険制度を運営するため、市長会を通じて国庫負担の増額を要望いたしております。

6 点目につきましては、市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう、身体活動、運動、栄養、食生活を柱に、生活習慣病、歯の健康など、健康いといがわ 2 1 を推進してまいりますとともに、介護予防に特化した健康づくりも積極的に取り組んでまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、類似する都市と比較し当市の 1 人当たりのごみ処理量が多いことから、ごみ処理基本計画に沿って、ごみの減量に取り組んでまいります。

2 点目につきましては、発生したごみは分別し、資源化することで減量につなげてまいります。

3 点目につきましては、処理方法により発生抑制が期待できることから、さまざまな処理方法について検討してまいりたいと考えております。

4 点目につきましては、ごみの減量により建設費を抑えることが可能と考えており、適正な施設整備に取り組んでまいります。

4 番目の子ども医療費軽減のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

4番目の1点目につきましては、通院助成を中学卒業まで拡充した場合、先ほど池田議員にもお答えしたとおり約1,300万円の増額と試算しております。

2点目と3点目につきましても、先ほど池田議員へお答えしたとおりであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

今問題になっている放射性セシウム137は、ベータ線を放出します。ベータ線は内部被曝が問題になります。糸魚川市に空間及び土壌中のベータ線を、ベクレルではかれる放射線測定器はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

現在、糸魚川市では所有しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

どれだけ放射線が出ているかを見るには、ベクレルによる実際の数値を出すことが必要であります。シーベルトは生の数字ではありません。総体的に見るとき利用するものであります。ベクレルによる測定をやるべきではないかと思いますが、どうでしょうか。両工場周辺の土壌、側溝、空間線量等、市で行う測定数値を正確に出す必要があると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

現在、特別措置法でも規定されておりますけども、空間線量についてはガンマ線を測定することが、放射線量の変化を正しく測定するということから、ガイドラインによってはガンマ線をする機械でいいということに規定されておりますので、その方針に従って測定していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

ガンマ線では、今、放射性セシウムですよ、134と137。今、137が残ってるわけでしょう、ほとんど。そのセシウムはベータ線を出してるわけですよ、今、一生懸命。そういうときにガ

ンマ線を図って、どういうふうになるわけですか。そういうものをおおよそ何倍だと、実際の数字じゃなくても、このぐらい掛ければ、このぐらいになるだろうというふうな、そういうレベルでしょう。やっぱり実際のしっかりはかった数字を、出す必要があるんでないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど新保議員さんがおっしゃられたとおりでございます。

いわゆる土壌中の放射能というのは、単位としてはベクレルでございます。したがって、今、そういう土壌等をはかる機械は、糸魚川市は持っておりません。専門機関に検体をお送りして、はかってもらう必要があります。

なお、土壌の今現在の放射線量というのも把握する必要もあるかと思いますので、今、検査に出すと、いわゆる測定をするということについては、今ちょっと検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

初日の市長の行政報告で、測定体制を強化するというふうに言われましたけれども、具体的にはどういうことを言われるのか。ベクレルではかれる放射線測定機器導入も、こういうふうな中に入っているのか、そういうものも検討すべきじゃないかというふうに思いますが、その辺のところはどういうふうなことなのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

測定を強化するというのは、鈴木議員さんにもお答えしましたとおり、まず、私どもで今所有する機械は、ガンマ線をはかる空間線量の測定器でございます。これについて専門家の話の中では、やはり土壌汚染等がある場合もありますことから、やはりそういう空間線量は非常に反応といいですか、測定をするために地表近くでもはかって、総体的に変化があるかどうかをしっかりと調べていきたいというふうに思っています。

なお、土壌中をはかる機械は非常に高価なものですから、必要に応じて測定する場合は、外部の専門機関に依頼するということも考えられますことから、必要であれば、そういうふうにしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

子どもたちは放射線の影響が大きいわけでありませ

ん。親の責任、保育園、幼稚園、学校の責任は大きいというふうに思います。放射性物質を含まない食材を提供する必要があると考えますが、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

学校、それから園、保育園では、放射性物質の食品の検査をしております。今、市が直接しているのは月2回、1回・6品目でございます。そのほかに新潟県も毎週、野菜類ですと56検体とか、そのほか魚介類等も含めてやっております。それらの情報も随時ホームページで公表されておりますので、それらの情報もあわせて、そういうものが出た場合は、給食食材としては使わないという方針で進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

農産物の場合、風評被害も考えなければいけないと思いますけれども、そのためにもその前段として、生産資材を市外から持ち込む場合、放射性物質を含まないものを入れることが大事ではないかと思えます。そういう点は徹底しているのかどうか、伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今お話がありましたものにつきましては、例えばシイタケの菌床でありましたり原木でありましたり、そういう部分につきましては、供給側で検査をして、生産者側にその確認書をお渡ししているという状況で今聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

シイタケだけでなく、ほかのものもぜひしっかりとやっていただきたいと思えます。

放射能汚染汚泥の受け入れの関係であります。現在、明星、電化の両社は、放射性物質を含んだ焼却灰、乾燥下水汚泥、脱水汚泥を、通常の産業廃棄物として受け入れており、それに加えて上水汚泥を特定産業廃棄物として、1日50トンから60トン受け入れたいということをやっているのか。合計1日100トン、放射性物質の量が1キログラム当たり90ベクレルならば900万ベクレルということになると思いますが、それでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今計算されておるんですが、ちょっと計算してみないと、一定の時間がないとお答えできません。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時39分 休憩

午後2時40分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど議員さんがおっしゃるとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

これ1秒ですからね、普通1キロ当たり、例えばハウレンソウ1キロで100ベクレルということであれば、1秒間に100個の放射線が出てるということを、これ汚泥の場合五、六〇トン、合わせて100トンの場合、総量1秒間に90ベクレルなら900万ベクレルという量が出てるわけですよ、1秒ですよ。第三者機関で実証試験が行われていれば、これははっきりします。そうでなければ確たる数字は出ないわけです。おおよそ、こうだろうという推測でしかないわけですね。

セメントに放射性物質、先ほどの前提で言いますと900万ベクレルがそのまま移動したということであれば、煙突から出ることはないと思いますが、実際には、そうはならないんじゃないかと思います。両社の検出下限値を何ベクレルに設定しておりますか。正確にはかるには、1ベクレルに設定する必要があると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

業者の検出限界というのは、ちょっと私どもも承知しておりませんが、測定の方法については、国で定められた測定方法によって測定し、そこで検出をされていないというふうに伺っておりますことから、確かに学者さんでは1ベクレルだという人もいますけれども、私どもは国で定めら

れたものに基づいて、企業がきちっと測定しているということでありますことから、何ら問題は無いというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

量が莫大に多いわけですよ、これがずっと毎日続くわけですよ。

先ほどありましたシイタケの検出限界、簡易測定器ですよ、検出下限値は50ベクレルですよ。簡易の安いもので、いいものなら、もう少し低いところまでなってると思いますけども、例えば会社のほうに依頼するところが、ある程度、専門的なところでやってるんで、例えば1キログラム当たり5ベクレルだと。それ以上のものがはかれるんだっていうことであれば、毎秒50万ベクレルの放射性物質が、煙突から放出されている可能性があるわけですよ。検出の下限値をどこにするかによって、出ていますとか、出ていませんといっても、電気集じん機と煙突との間に、そこをはかって、その下限値以下であれば検出されないわけでしょう。

だからこれ市が一番このところをきちんと会社のほうにそこを確認して、果たして本当に言ってる数字が大丈夫かどうかというのを、よく調べなきゃならんわけでしょう。こういうことをきちんとやらないで、大丈夫ですというのは、これ無責任になると思いますよ。

もう1つ、これはこの前の講演会のときに先生が言われてたんですが、電気集じん機と煙突との間で、排ガスの放射線量をはかっていると、2社ともですね。正確にはかるためには、空気を規定の何倍か集めて圧縮して、ベクレルではかる必要があると。後で調整して割り戻すということになると思うんですが、こういうふうに測定しないと、きちんとはかれないと、正確なものが出ないということなんです。この辺のところは、どのように測定されておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

まず、大気中に放出される場合の測定場所については、今ほど議員さんがおっしゃられたとおり、電気集じん機から煙突の間で測定されてるというわけです。

この前の野中先生の中では、確かにそういう一定量の気体を採取して、圧縮してはかるのが適切であるというようなことをおっしゃっておられましたけれども、国のほうでは、このセメントの製造における大量の排気ガス、そういったものをはかるには、それは現実的ではない。そういうことから国のほうで定められた、いわゆるろ紙等で、そこに付着するばいじん等で、はかったものについて検査をするという形で決められております。そういう決められた方法で測定して、検出しないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

それだと、きちんとした測定はできないんじゃないか。ずっと100ベクレルだから安全だと説明会でも言われてきたし、委員会でも言ってるし、ずっと言われてきたわけですよ。でも実際問題、しっかり測定していないじゃないですか。それで何で安全と言えるんですか。

やっぱり正確な数値を出すためには、先ほど言ったように検出限界値を下げる、1ベクレルまで下げて調べてくれと。時間をかければできるわけでしょう。だからそれはあまり今の時期だから、いろいろとあちこちから頼まれるから、あんまり長くやっておられんということで、一定のところを時間を切ってしまうから、一定レベル以下、ある程度高いレベルになっちゃうわけで、そういうことも含めて両社に、2つの会社に、先ほど言ったような測定の仕方、きちんと正確な数字を出すために、両社に求めるべきじゃないかと思うんですよ。そういうふうに、やっぱり公害防止協定も結んでるわけですから、そういうふうに頼んだらどうですか、言ったら、そういうふうきちんとやってくれと、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほども申し上げておるとおり、国のほうできちっと専門家で、測定方法まで決めて基準をつくっとるわけです。そういう決められた方法で測定してあることについては、私はそれに企業が従って測定していることでありますことから、適切な試験方法をとっているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

国のほうで専門家がそうやってきた、国の言うことは安全だということであれば、何で福島第一原発が事故を起こしたんですか。国は安全だ、安全だと言ってきたわけでしょう。地震が来ても大丈夫だと、それを専門家が言ってきたわけでしょう、多くの専門家が。けど実際にはそうならなかったと、そういう人たちが、これで大丈夫ですよって言って信じられますか。

市役所の仕事というのは、市民の安全・安心を守るのが仕事ですよ。そのためにはどうしなきゃならないかということで、考えなきゃならんわけです。言われたから、それをやればいいというものでもないでしょう、もう。特に、この原発の問題なんかそうだと思いますよ。しっかりやってくださいよ。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時49分 休憩

午後2時49分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

ぜひしっかりやってもらいたい。今までのそういうやり方じゃなくて、国がこういうふうにしてるから、そのレベルでいっていいんじゃないかって、やっぱり糸魚川市民のことを考えて、もうちょっと今までよりも手をかけて、会社にもしっかり力を入れてやってもらおうと、そういう方向でぜひ改善してもらいたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほどから吉岡部長が言うておりますように国の基準、あるいはいろんな指針が出てるわけで、それに沿ってやるというのが、まず一義だと思ってます。

ですが、ただ、今、議員が言われますように、非常にこのことについては、いろんな不安点があるわけですので、そういう点では最善を尽くす方法というのは取り入れるべきだと思っていますので、そこら辺はしっかり市の中でも検討したり、あるいは企業にもそのことを伝える中で、市民の安全・安心を説明できるようにしてまいりたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

普通の例えば重金属なんかでも、いろんな公害が今までありましたけども、放射線の場合は飛んでいくものですね、大部分。重くて近くに落ちるようなものもあるんですけども、なおさら目に見えないし、そういうふうな人間の一番大事なDNAに影響を与えるものでありますので、しっかりやってもらいたいと思います。

この市内の17企業、事業所と結んでいる公害防止協定で、2社も結んでいるということですが、この協定で今回の問題、対応できますか。先ほどこれで大丈夫だと言われたんですが。

例えば今、一般食品並みの100ベクレル以下、1キログラム当たり、以下で、これで国は安全ですと言っていると。ところが、大量に1日50トン、60トン、そのほかのものも下水汚泥なり、焼却灰を含めて汚染されたものを100トンやってたと。これ2社ですと10年なり20年なり続けていった場合に、もしここでいろんな問題が出てきた、それが表面化したときに、会社の責任を問えますか、今の公害防止協定だけで。市が安全ですよって説明会のときも、市もそう言ってるわけですね。会社が言ってるわけじゃないんですよ、市もこれは大丈夫なんですというふうに市民の皆さんに説明してるわけです。もし何か起きたときに、今の公害防止協定で対応できるか。もうちょっとその辺のところをはっきりさせたものを、覚書なりやる必要があると思うんですが、い

かがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

受け入れするような形になれば、しっかり会社等と市、あるいは発生元の新潟市等とのいろんな覚書は交わさなきゃならんというふうに思っていますが、やはり基本は、国が示した基準というものが最初の基本だと思っています。そこら辺を十分踏まえながら、しっかりお互いに理解できるように、あるいは市民に理解できるように取り組んでまいりたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

上水道は市の関係だということで、今論議になっているわけですが、既にそのほかでも下水道汚泥なりやってるわけですよ。だからそういうのも含めて、大丈夫なんですかというふうに言うわけなんです。ぜひこの点は、しっかりやっていただきたいと思います。

放射性物質処理の基本は、最初にも言ってますように封じ込めと拡散防止であります。本当に安全なものであれば拡散させずに、そこで処理すべきでないかなど。何で費用をかけて糸魚川まで運んでくるんだろうと。市民の安全・安心を考えれば、10年、20年、長い期間予想される、そういう放射性物質を含む汚泥処理というのは、私はすべきではないんじゃないかというふうに思います。

ほかのところでも今まで例えば肥料として、あるいは畑で使うとか、そういうことで皆さん提供してたと。だれでもそれができなくなったということは、それなりに危険だと承知しているんじゃないですかね、その相手の市ないし依頼する側のほうも。それを糸魚川市民の立場に立って考えれば、そういうふうに思うようなものを、何で糸魚川市のほうに集中して持ってくるのかなど、そういうふうに思うのも、これも当然のことだと思いますし、私はそういうふうなことはすべきでないんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

原発事故によって東北、あるいは新潟のほうまで放射性物質が飛んだわけですから、それらは広範囲に広がっているわけです。その1つの処理ということで、この下水道、あるいは上水道のことが提起されてきたわけでありますので、やはりそこら辺、今、国を挙げていろんな方策をとってるわけですので、今、糸魚川でできるものというのが、1つの提案だというふうに思ってますので、できる限りの協力はしなきゃならん。ただ、その中には、やっぱり安全・安心というものをしっかり踏まえた中で、取り組むというのが基本だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

昨年の6月定例会で、柏崎刈羽原発の海洋汚泥処理の答弁で、放射能汚染しているものは、私は受け入れないという方向は変わりはありませんというふうに米田市長が答弁されてるんですね、これは吉岡議員への答弁でありますけども、考え方というのを変えられたのかどうかですよ。

やっぱり危険だというのは、それは避けるべきでないかなというふうに私は思うんですが、その辺のところはどうなんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

柏崎原発のやつは、放射能汚染があるんでないかというようなご指摘だったんですが、それは給水口であるからないということで、私は説明させていただいております。

ですから今回は、今、本間副市長が言いましたように、我々はやはり今、復旧・復興に対して対応していきたいわけでありまして、今、我々の糸魚川市でやれることは、2社による汚泥の処理だととらえておるわけでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

セメント製造工場で放射能汚染汚泥処理を続けていくと、私は観光に、はかり知れないダメージを与えることになるんでないかと、こういうふうに思います。主観的に、そんなことはないというふうに思ったとしても、周りから見ると、そうはならないというふうになるんでないかなということもあるんで、ぜひそういう点、よく考えて判断していただきたい。

先ほども言いましたように、国が安全だと言ってるから安全なんだという、そういうふうな考え方はやめて、市民の安全・安心というのを第一に、ぜひ判断をしていただきたい、このように思います。

今後の対応ですが、もし柏崎刈羽原発で事故が起こった場合、どうするかということですが、およそ筒石が56キロ、能生駅で65キロ、糸魚川駅で78キロ、境川で99キロ、私がかかって、おおよそこのぐらいでないかなというふうに出したんで、正確であるかどうかは、これはわかりません。あんまり正確じゃないけども、そんなに大きくは外れてないと思います。

一番新しい平成24年度の統計要覧で、青海分署で、平成19年に東北東の風、最大瞬間風速32.5メートルという数字が掲載されております。大体、柏崎刈羽原発と同じ方向でないかなというふうに思いますので、これで計算しますと、筒石まで29分、能生駅まで34分、糸魚川駅まで40分、青海駅43分、境川51分というふうになります。こういうふうな非常に強い風という前提条件ですけども、想定外というふうなことは、そういうことのないようにということで、考えなきゃいけないと思うんで、こういう場合に、例えば避難、屋内待避、ヨウ素剤配布、どうい

ふうに行うかって検討はされていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

今、新保議員が申されたように、新潟県も原発の事故が起きれば、もう県内全域にその被害は拡大するという想定の中で、原子力防災対策の見直しを行っておるわけでございます。

先ほど市長がご答弁申し上げましたように、県内の市町村も近い、遠いはいろいろありますけれども、全体がまとまって防災対策、及びそれから避難、それから屋内待避の基準等も含めて、全体で今検討を進めているというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

やはり市民に徹底しておく必要があると思うんですね。

ヨウ素剤にしても先ほど答弁にありましたように3カ所、事務所で、市役所本庁と3カ所で保管してるということですけども、そこから今の打ち合わせの中で、例えば30分で全部手元に届くかと。学校が開いている昼間、学校に届けて、それから子どもに配ると。あるいは休みのときは、それぞれの子もたちのところに配る、それが連絡が来てから実際に子どもたちに届くまで、今の体制で大丈夫なのか。届けるには、どういうふうにしなけりゃならんのかというのを、早急にやる必要があるんじゃないかと思うんですけどね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ヨウ素剤につきましては、今、市役所と、あと青海・能生事務所で保管しておりますし、万が一のときは、やはりまず屋内施設に避難をしていただくということになります。ヨウ素剤につきましては、特に小さい子については粉末を液体に溶かさなきゃいけないということで、薬剤師からそういう調合をしていただく中で、あとは各避難所にそれらを配布しながら、外と、外気と触れないことが第一ですし、避難するときに、そのヨウ素剤を飲んでいただくと。ヨウ素剤効果は大体24時間ですので、避難するきに飲んでいただくような形になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

今、長岡市になりましたけども、以前にも紹介したことがあります旧小国町、あそこはすぐ近くなんで、もう各家庭に全部配ってあるそうです。とにかく間に合うように、それと同時に服用する

知識、それを関係者、市民に十分徹底していただけるように努力していただきたいと思います。

次、介護の関係でお伺いいたします。

糸魚川市の減免の関係で、昨年度の糸魚川市の減免は、どういうふうになっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

所得よっての減免を抜かしまして、社会福祉法人への減免につきましては、現段階では7名の利用があります。それと所得による減免につきましては、合計で771人に減免をさせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

所得による減免というのは、これはどこでもやられていることですので、独自の点で低所得者に対する市独自の利用料の減免ということで、上越市は、社会福祉法人による負担軽減の4分の1に加えて4分の1を上乗せして、全ての事業者のサービスを2分の1に軽減すると、要するに半分になると。妙高市は、そのもとに4分の1に5分の1を上乗せすると。民間事業者の場合は、5分の1を軽減するというふうにしているということですが、糸魚川市も、こういうふうなものを検討する考えはないか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1つの事柄をとらえて、他の市町村がやってるからうちはどうかというような見方というもの、これは必要だと思っておりますが、我々は今、この高齢化社会において、また市民生活の中においてトータル的なバランスの中で、糸魚川市に合ったものをしていくのが1つの制度だろうという形で、今、とらえさせていただいております。

ご指摘していただいた点についてもやはり検討しながら、その中でじゃあ今までやってきたことはどうなんだとか、いろいろ市民に喜んでもらえるものであったり、また、財政の許す範囲の中で、こういった形ができるのかということ、とらえさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

いろいろやることはたくさんあると思うんですが、第5期の介護保険料の値上げで大変だと、かなり上がったと。それよりも今度は6期、3年後さらに上がるというふうなことも推定される。そういう中で、やはり負担を軽減するために、どうするかというのを考えなきゃならないと思うんですよ。

低所得者に対して、上越、妙高でやってるようなこともぜひ検討していただきたいと、そういうことですので、今ほど市長からお話がありましたけれども、ぜひ検討していただきたいと思います。

それで全体の一番最初に聞いた医療と介護の関係ですが、医療のベットは平成18年度から平成23年度まで比べるとマイナス241、減ってるんですよ。介護ベットは173にふえてます。これは介護のほうに影響してないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

医療のベット数が減ったことに伴う、介護の負担が上がったというふうには考えておりません。認定者がふえたこと、要介護度が高い方がふえたことによりまして、特別養護老人ホームの施設の増床、老人保健施設の増床に伴う増というふうにご考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

これから負担の軽減ということを、ぜひ考えていただきたいと思います。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、新保議員の一般質問が終了いたしました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後3時09分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+